Jan. 1892
no. 300

女學雜誌

第三百號
明治二十五年一月十六日發兌

獻身　社説
小公子の評
（其談）在米國人
（其一）中島俊子
（其二）石橋忍月
流の葦　小説

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 300. JANUARY 16TH. 1892.

第三百號目次

EDITORIAL:—Consecration: Business-men as candidates.

CHILDREN'S COLUMN:—A few facts about "Little Lord Fauntleroy. (From a gentleman in America.)

MISCELLANEOUS:—Foundation of Social Reform (Answers returned by a class of girls); Best part of Education; Frederic Harrison about education; Puritan Spirit; National Vigilance Association; Okayama Orphan Asylum.

HOUSEHOLD:—Sick Nurse.

NOVEL:—"A Read in the Stream."

CRITICAL NOTES.

CURRENT EVENTS.

●社說　献身○實業家候補者

●兒欄　小公子に就て（在米、梅澤生）

●雜錄　社會改良の根底は何ぞ（女學生答文六）○讀書片々（教育上最良の處。人か獸か。ピウリタン氣性）○英國廢娼會年報○岡山孤兒院を見るの感（藤井米八郎）

●家政　看病

●小說　流の峯（是空子）

●批評　非筒女之助○小公子（中島俊子、石橋忍月）

●時事

●女報

皇后陛下
明宮殿下
御覽濟の書

（リツトル。ロード。フホントルロイ）

小公子

小供のよみ本

巖本善治妻 譯

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遙する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネィ、と申たとか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ざり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御坐り升。邪道に陷らふとする父の足をとゝめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の德を思ひ起させるは、神聖なる天職を擔ふ可愛の幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故、此珍重すべきまろうどを倘一層優待したいと切に願ふ者です」と。斯る主意にて譯成る。原著は近頃英米に轟き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髮の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且倘ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十頁密書十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。一册正價三十八錢。郵稅八錢也。

發兌元　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第三百號　明治二十五年一月十六日發兌

社説

獻身

天高く地低し、誰か之を等しと云はん。而も、雲山相接し、水天彷彿たるの觀なきにしもあらず。凡そ、一目して、矛盾衝突せるもの、實は相ひ調和密交するの象にあらずと云ふ可らず。身を重んずると、身を獻ぐるとの事の如き、即はち是なり。

天地間、「我」と云へる觀念の至强至眞なるに及ぶものはあらず。「我」を重んぜざるものにして、果して能く何ものをか重んずることをせん。「我」に對して、確認、確信、確守する所ろなきものは、「我」以外、「我」以上の万づの事物に對して、輕々歎々たるべし。如斯き人は、一個人として生れざるに均し。幾万人ありと云ふと雖ども、肉の積み、骨の重なれるに同じ。平の清盛、庭上に骸骨を見る、百千の骨骸忽焉合して一大白骨となる。たとひ、睨するとも白骨何んかあらん。「我」の觀念薄弱ある人士の集合せるは、たとへば、福原の舊都の凝固せる白骨の如し。

万づの物に優りて、「我」を重んじ、而して此の「我」を犧牲にして、「我」以外のもの丶爲に獻げんと欲す。極めて怪奇なるに似て、而して、天下如此く美妙なる情理はあらず。

所云る「我」を重んずとは、「我」の中の尤とも尊貴高美なるものに從ふの謂ひあり。尊貴高美なる自識、何如にか云ふ。大風も沒すること能はざるの聲を以て、いと嚴そかに命じて云へらく、汝ち、人を愛せよ、汝ち、眞理を重ぜよ、汝ち、上帝を敬まへよと。其聲、万雷の轟ろきの中にも滅びず、大地の震ふ下にも失せず。

「我」この聲の何處より來るを知らず、然れども、確かに、其聲を聞く、而して、此の聲に從がはざるときは、「我」身を何如に處するとも安からず。王の宮殿に比びなき賓客となるとも樂しからず、妻子傍らに笑み、父母堂に和らぎ玉ふとも倚ほ滿ち足れりとせず。あ丶、「我」は、「我」を重んじて、而して「我」の中の或るものに支配せらる。何處にか逃れゆくべき、「我」他に安宅を見ず。たゞ其命を聞き、其命に從がひ、以て

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

自から安んずるあるのみ。

此故に、「我」は自から重んずると共に、「我」を擲つて身から獻げんことを欲す。もし、全身を棄てゝ之を或ものゝ爲に犧牲にすることを得ば幸ひなり。

冷やかなる進化論者は云く、犧牲とは、蠻人の遺習なりと。此如き輩、安くんぞ、人の高貴尊大なる情趣を知らんや。夫れ、犧牲とは、人類最上の崇敬の念ひより發す、其風の古へより存するは、即ち人の崇敬の念の古へより存するの證なり。

然れども、醇化發達の道行を討論して、而して今の人情の希望を増減するは不可なり。進化の跡の何如なるに關せず、吾人方今の「我」等は、人を愛し、眞理を重んじ、上帝を敬せずんば安んずること能はず。之が爲めに、一身を獻ぐるにあらずば、樂しきこと能はず。此に至らずして止まば、身の中に、何處にか死所あることを覺ゆ。活氣全躰に滿ちず、安心「我」に行渡らず。たとへば、水鳥の陸に遊ぶが如し、逍遥すと云ふと雖ども、尙未だ足らざるものあることを感ず。

女は己を愛する者の爲に死し、士は己を知る者の爲に死せんことを欲す。如此き人の死するは、其の苦にあらず、家に歸るが如し。自から好みて、其身を獻ぐるものは、身を殺すを以て、樂しとなす。

人は決して取らんことを欲するものにあらず、實は與へんことを欲するもの也。蓋し取ることを好むものもあるべし、然れども取れるものゝ樂しみは、之を與へたるものゝ樂しみに及ぶべくもあらず。人世の幸福は、與ふるにあり。

老莊の徒歎じて曰く、議論生じて人を禽獸にすと。方今、人を誤まるものは、議論なり。世人、錦衣美食の人を迷はすことを知りて、虚しく飾れる言論の更に多く人を惑わすことを知らず。學校ありて、人を教ゆること少なく、教師ありて人を愚にすること多し。尤とも歎ずべきは、今の冷淡酷薄なる議論なりとす。

議論巧みに假面を装ほひ、人の本性の刺激を蔑ろにして、之を禽獸たらしめんとす。滔々たる世人之に誘われて其尤とも高貴なる天性を無みす。此に於てか、近來「獻身」の樂しみを言ふものなし。之を味はふ者に至ては更に稀なり。

木の實のよし惡は、以て能く其樹の善惡を證す。世人、獻身

の是非を論ずるを休め、先づ奮つて自から之を試ろむべし。敎會を牧するものは、其羊の爲に身を獻ぐべし、學校に敎ゆるものは、其兒の爲に身を獻ぐべし、眞理を研究するもの、正善の事業に從事するもの、家庭を修むるもの、病者を看するもの、皆な其事々の爲に身を獻ぐべし。而してのち心中の快樂果して何如んを見よ。百聞一試に如かず、万語寸行に及ばず。徒らに空論するは、懶蜂が怠りて鳴くに異ならず。

夫れ、一の獻身者あるは、百の空論者あるに優る。試みに萬國古來の史乘を見るに、人世の大樞機を轉廻したるものは極めて少數の人のみ。他は、碌々數ふるに足らず。而して、其少數者とは、所云る、善罵醜行の豪傑にもあらず、野心非望の奸雄にもあらず、唯至誠篤行の獻身者これ也。

故に、人は、起つて其事業に趣むくの前に於て、先づ切に自省し、「我」は能く、其事業の爲に身を獻するや否やと問ふべし。苟くも、此決心、此素養なく、蹌踉漂漫として只苟且に之に當るは、雇はれ人が心なく其業を執り、驢馬が嘶ないて軛を率くに似たり。堂々たる天地の純靈、千古の秀物たる、「我」人間の爲す所ろの事業ならんや。

實業家候補者

實業者議場に列して邦家の財政を議すると云ふは、其名至つて美にして、其實極めて不可なり。

今の實業者は、眞誠の實業者に非ず、彼等が數理は、ミルの想像せし世界の數理の如し、二と二と合して六以上となるとを經驗せるもの多し。數理の重んずべきは、時事翁の說の如し、然れども如此き數理家に邦家を托す可らず。

たとひ彼輩眞誠の數理に精しとするも、此を以ての故に、邦家の大經濟に參せしむ可らず、たとへば、鐵道買上の如き議案出んとき、票を投ずるの黒白は、即はち自利に益するの有無をもて決するに至らん。

直接損益に關係なき士人が之を議するは公平なり、日本の議會の如く、財産少なき士族流が國家の經濟を料理するは、類ひ稀れなる美事なり、議決之が爲めに潔よし。もし、夫れ、自家營利の故によりて票を投ぐるの結果は、英米の議會を蹂躙したる黄金大王の亂暴によりて顯著なり。此の見事ならざる現象をして日本國裏に再演せしむ可きにあらず。何れにせよ、所云る實業家を特更ら撰擧せんとするは愚なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

兒籃

「小公子」に就て

在米　梅馨生

余は近着の日本新聞紙を閲してバーチット夫人の著ある「リットル、ロード、フオントルローイ」巖本氏の妻君の譯述に係り女學雜誌社より出版せられたる事を知り深く自ら喜に堪へざるものあり抑も余此書を愛讀するは一日にあらずして今も尙ほ余の案頭に横われり而又到處此劇ある毎に必ず行て見ずと云ふ事なし曾て之の反譯を試んとしたる事も數々にして遂に果さゞりき余は未だ「小公子」を一見する事能はざれども我邦には多くの批評家あり之が値價を判するに誤らざるべし只だ余は此書と因縁尠からざるの故を以て遙に之が爲に一言するの已を得ざるものあり。

蓋し余が此書の反譯を企圖せる所以のものは固と名を賣り利を護んが爲には非ず只歐米の有らゆる種類の著述が續々我邦に譯述せらるゝの今日に於て獨り今世紀に稀有と稱する此好著の其譯なきを恨み且つ紛々たる彼の俗社會をして少しく此書の如き靄々たる人情の和氣を翫味せしめんと願ひたればなり故に余は毫も自ら其功を奏すると能はざりしを憾みず寧ろ一日も早く此書の我邦に披露せられたるを喜び更に其の余の如き陋手に依らずして而かも女流の優美なる筆を借りたる事を滿足に思ふ而已。

此書が世に出でゝ大評判となれるは千八百八十五六年の頃に在り而して今日に至る迄一般に愛讀せられて家々の好雜書たり初め此著はバーチット夫人が米國兒女の必讀する有名なる「セントニコラス」雜誌の依頼によりて投書せるものにして其後之を一書となし更に演劇に仕組まるゝに至れり夫人に二子あり長をビピアンと呼ぶ生れて怜悧夫人の愛撫極なく書中フオントルローイの一舉一動は悉く此兒より取來て之れ寫出せるものにして徒に想像を書けるには非ず世には實に此の如き寧馨兒あるなり余は先にビピアンの病に罹り夫人の憂苦頗る切に兒を携へ名醫を尋て歐洲に赴ける事を聞きしが其情誠に思ふべきなり此書の奇なる所以は啻之のみに非ず夫人が此書を著すの前ほど「セントニコラス」雜誌に「エヂサスパーヂラー」と題する小話を掲げたりしが其の記す所はエヂサと名くる一少女が能く强盜を說て其行を改めしむるに在り此書も演

劇に仕組まれ遂に之を舞臺に見はすに當り誰か能くエヂサたるべきものぞとは實に困難なる問題なりき如何となれば眞個の一少女にして能く其精神を供ふるものたらざるべからざればなり此時に當てエルシーライドと名くる少女なるニユゼルシーの良家の子にして時に年僅に八九歳出て之に當る其の天然の妙實に人をして舌を巻かしめたりと云ふ左ればフオントルローイを演するに當ても亦エルシを措て他に求むべからざりしなり蓋しエルシーも他の兒女と同じく此書を愛讀せるものにして而して其の天眞爛熳たる無邪氣にして可憐の性質は自然に此書と相映射し之に扮して其神に入り遂にフオントルローイとエルシーとは名を分つべからざるに至れり其のボストンに此戲を演するの時ペーチッド夫人はエルシーに書を送り自ら行て之を見物せり其文中に曰く「人々は皆な卿が如何に愛らしきフオントルローイたるやを語れり余は明夜行て卿の技を見る事を樂むなり卿若し棧敷の一方に黄絹の衣を纒へる小さき婦人の卿を見詰めて笑を含むものあるを認めば云はずして其の誰れなるやを知るべし演戲の了りたる後に余は暫く卿を見ん如何となれば余は卿と接吻して且つ余の喜を告げざるべからざればなり余に女子なけれども二人の男兒あり其の一人は恰もフオントルローイの如くなりき二人とも常に余をヂアレストと呼べり故に余はフオントルローイをして其母をヂアレストと呼ばしめたり」云々以て其の由來を見るべく著者の心を用ひたる事は實に尋常一樣にあらざるなり故に全篇悉く眞に逼り讀者をして轉た同感の情に堪へざらしむ如此なるが故に此書の及ぼす感化は啻に無形的に止らずして延て有形上にも及ぼせり今は少しく廢れたれども一時は米國にて「フオントルローイ風」と稱するもの頗る流行せり「小公子」には插畫あるや否や知らざれども凡て美しく兒女を持てる母等は其の子の金髪を蓄へ之を縮らして長く頭を掩ふて垂れしめ扁たくして其の縁の最と廣き帽を後に傾けて戴き黒天鵞絨の衣服に襟と袖口には白のレイスを附け赤帽の帶を横腹に緩く結びて其の端を屑々と地に垂れ半ヅボンを着け美麗なる上靴を穿たしむる事にて初めフオントルローイを演する時此の扮裝は亦た之を彼の愛兒ビビアンの眞影より取れりと云ふ如此にして其の母等は往々其子をして己をヂアレストと呼ばしむるに至れり米國に在ては凡て其の母子夫婦の間は互にヂーア

と呼ぶ事は通例なりヂアレストと云ふ迄もなく最愛の人と云ふ事にて英語にては頗る芳しき呼名なれども日本語にせんには譯語は如何なる字面を用ひられしにや又何れを問はずフオントルローイの演劇ある毎に必ず大入にて場内には此の如き子を持ち又は持たんと願ふ婦人を以て滿てり或る酷評家は世の母等に其子をしてフオントルローイを習はしむるは其の敎育を誤るものにして大に其の發達を害し氣概ある男兒をして柔弱なる女子とならしむるものありと云へり遮莫神の外には完全なるものはあらず人の性若し生れて悉く此兒の如くなるを得ば此世は實に天國なるべし。

小說なるものは必ずしも道德の具には非ざるべし然れども若し之によりて世敎を益すべくば蓋し此書の如く功德あるものあらざるべし如何となれば此書の主人公は實に此世に向つて平和と善意を傳ふるの天使なればなり而して著者は此の主意に基き正に是れ「孩提を我に來せよ神の國に居るものは斯の如き者なり」との一部の說敎をなせるものにして恰も美麗なる春の草木の自然を說く如し我邦の人心の如何に冷淡なるにもせよ焉ぞ此福音に耳を傾けざらんや其德に感ずるものは己に靴磨の少年荒物屋の主人若は彼の老貴族のみにあらず富て驕慢なるものは之を讀て其罪を改べく貧して薄命なるものは之を讀て其苦を慰むべく應に世を擧て悉くフオントルローイの親友なるべし左れば「小公子」は少年文學と冠せられたれども如何なる種類の人々も實に必讀の書にして殊に其平易の間に英米人情風俗の差を敘する所容易に他の書に得べからざるものあり而して更に艱難の中に此兒を生み此兒を撫育せる母ある事を思へば實に世の婦女子の好摸範たるや言を待ず故に余は心より女學雜誌社の此擧ありしを喜び巖本夫人の勞を謝し併て米國女流文學者の泰斗たるバーネツト夫人の純潔なる思想の今や我邦に紹介せられたるを祝するなり余は即ち遙に「小公子」の流行如何によりて我邦人の意向を卜せんとす。

因に云ふエルシーは今や年稍長じフオントルローイを扮するには少く不釣合になれるなんと思はる當時之を演して有名あるはガーチー、ホーマン。ジヨージ、クーパー。等あり又エルシーは文藻に富み其人と應答の書等は頗る愛讀せらる他日一個の著作者たらんとは此少女の願なりと聞く是豈偶然ならんや。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

社會改良の根底は何ぞ

此の問題に對し、明治女學校本科三年生(高等小學卒業后三年生)が答へたるもの丶、標本を擧ぐれば左の如し、

(其一)

傳道者の言に云く、事の全體の歸する所を聞け、曰く神を畏れ其命を守れと、是れ國會の基礎なりとの御敎を受けたり。社會改良の根柢も亦此處にあり、たとひ外形の政治進歩致したる如きも内部の人々神を信ずるに至らざれば、傳道者の又の言葉の如く空の空に候はん、然れども惣てのもの此に至るの道行きと存じ候、后に至りて彼の人の致したるを惡と云ひ善と云ひ惣べて皆な眞の進歩を爲さすべき一のてだてなりと存じ候へども。

(其二)

社會を改良せんには、先づ社會の道德を改良せざる可らず、而して社會の道德を改良せんには其社會の元素たる個人の道德を改良せざる可らず、個人の道德進歩して個人強く且つ正しくなりたらんには社會自らにして一變すべし。夫れ社會なるものは個人の衆合せるものなり、而して人は道德的の動物なり其行爲すべて道德に協はずんばある可らず、故に社會と云へる人々の衆合も亦すべて道德的の目的を有せずんばある可らず、然るに今日の社會は道德腐敗せり、故に先づ其道德上の改良を爲さゞる可らず。而して、其方法は、前陳せる如く個人を改良するにあり個人を改良するは之を敎育するにあり、而して個人敎育の中ち、女子一家にありて其家々を敎育し改良するを尤とも勢力ありとす。然るに今日の女子は概むね此力なし、故に先づ女子を敎育すべし。即はち社會改良の根柢は個人を敎育し兼て女子に他を敎育改良し得るの力を與ふるにあり。

(其三)

世人道德と政治とは關係なき者と誤解すると多し、然れども人の行爲は惣て道德の範圍を越へず、如此く政治と云へる人の行爲も亦其範圍外に存すべきの理なし、然るに政界もし不道德なる時は社會又從つて腐敗せん、故に社會を改良せんとするに當ては先づ一己人々を敎育し而して政治社會をして

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

基ひを道德に置かしむると肝要なり。夫と共に女子政界に入らずんば到底政界を清くし社會を正しふすると能わず。

（其四）

社會は一個人々の集會して成れるものなり、而して其社會を改良せんと欲せば、先づ一個人々を正しくせざる可らず、之を正しくするは道德を以てせざる可らず、而して一個人々皆な家を有す、一個人々正しければ家必らず正し之を正しくするは婦女子の責任にして一個人々正しければ夫を集りて成れる社會は自から正しくなりて改良するとを得るなり。

（其五）

……斯して人々神を恐れ道を重んじ己の德を傷つけざる人となれば、政府を己の身の如く愛し其惡しき所を矯め國家を愛するに至らん、又國法を破る如きとは爲すまじ、又廢娼禁酒の如きに心を傾むけしむるやうにすれば其人々は誠に清き心となり惡を惡むの心を強くす、而して社會が不道德に流るゝ時其清き心を以て之を改良するに足る。婦女子を社會に出さざれば社會は亂暴に流れて慈愛の心に乏しきを感ぜず、女子は能く亂暴に走るを和らぐるの力あり……。

（其六）

社會を改良せんには先づ一個人々を強くす、強くするには正しくするにあり、而して婦女子をして邦家の事に注目せしめ女子をして政界に入らしめ、唯一人の母妻たるのみならず、一國人民の母妻となり、政治を德義慈善美術に進ましめ、上は道德を以て法を治め下は德義の人民たらしむるにあり。夫れ愛あるものは法を破らす、實に愛の心を以て上下に接すれば下又愛を以て國民當然の義を盡し自ら勉め勵むの心を振起すべし、此の如く上下一致して夫々自己の職分を盡して始めて完全なる社會となるとを得んか。

讀書片々

○教育上最良の處

教育上最良の部分は何處ぞ、人、他に向つて給與せんとするの所ろ即はち此なり。（ゼームス、ラッセル、ラウエル）。

○人か帝か

フレデリック、ハリソン、教育上の景況を省察し、四十年の學事の徒勞に屬せしを慨し、慷嘆して曰く、わゝ、今の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

教育者は人に接するとなし、試驗答案の紙にのみ接すと。

○ピウリタン氣性

神學博士、大博士リチヤード、サルター、ストルス氏は、嘗て、ピウリタン氣性を論じ、一場の大演說を爲して曰く、今に於て尤とも必要なるは此の淸敎徒の精神なり、而して何れの世にも之を無用なりとて反對する暗議なきにしもあらず、然れども今の世必らず之を要す、而して此精神の關係充滿する所ろ甚はだ廣し。

淸敎徒の氣性は何處より來れる。今ま其元素を調査すれば、第一は、悟諒したる眞理を深く確認すること。第二は、正義の權威を深く感ずる事。第三は、上帝義しく配治し玉ふとを深く確信する事。第四は、人なるもの丶尊威を深く自覺する事、などにあり。然れども、亦彼等が通じて欠く所ろの氣質あり。彼等は、第一に、美術上の事物に趣味を有せず。第二に、人生の些細なる愉樂快味を輕蔑す。第三に、異論を有する人に博愛を與ふるとなし。此等は皆な其の欠點なりと云はざる可らず。然れども、其長所を擧れば、眞に敬重せざるを得ず。彼等は、莊重にして眞實なり。彼等は偉大なる理想を有す。彼等は豪壯偉麗なる勇氣を存す。彼等は制度を物の數とせず、超然として其上に立つ。彼等は、天に屬する事物を極めて明白に識認せり。左れば、此の淸敎徒の氣質は、古今万國の偉人の中に宿り、何れの代、何れの國にも煥發したり。モーゼはピウリタンなりき。ヘゼキアもピウリタンなりき。ダニエルも、エレミヤも、皆ピウリタンなりき。基督もピウリタンなりとは言わず、ピウリタンの善き氣質は皆な基督に現はれたり。故に、ヨハネも、ピウリタンなりき。パウロもピウリタンなりき。其他、アリスタイデスも、エピクテアスも、マーカス、アウレリアスも、ペーシルも、アサナシアスも、ヒルデブランドも、バーナードも、ウイツクリツフも、サボナロラも、ホツスも、ズウイングリも、多くのヒウゲノーも皆な、ピウリタンなりき。此精神よく國を創め、國を維持し、亦た國を進歩せしむ。

それ日本に於けるピウリタンは、眞の武士にてありき、今に於けるピウリタンは、眞理を愛し、正義を重じ、婦女を敬し、平民に黨する好紳士にてあるべし。

マルタとマリア（其上）

みどり

主よ、若しこゝに在せしならば、我兄弟は死ざりしものを（約翰傳第十一章廿一、卅二）。

マルタとマリア二人の姉妹の言行は、宛がら好く二種の女の性情を現はす。

夫れ、名は美膏に愈り、死ぬる日は生るゝ日に愈る、哀傷の家に入は宴樂の家に入るに愈る、其は一切の人の終かくの如くなればなり、生るものまた之を其心にとむるあらん、悲哀は嬉笑に愈る、其は面に憂色を帶るなれば心も善きに向へばなり、賢こき者の心は哀傷の家にあり、愚かなる者の心は喜樂の家にあり。左れば、主は常にかなしむ者と友たり。

基督、祭典の折エルサレムに詣づれば、殿堂に於ける一日の苦勞畢りしとき、ベタニアの靜けき村に入り、ラザロの安らけき住ひに息ふとを常例と爲し玉ひき。彼は、枕する家もあらず、狐の穴あるにも倘ほ劣れり、冷やかなる人情に悲しみ果て、終日傳道に心を傷め玉ひし末は、同胞三人切に愛して樂しく暮らす此のホームに夜を送り玉ふと、切てもの慰さめにてありける。

左れど、今はラザロ死せり、此の樂しかりけるホームは今や悲哀の家となりぬ。基督は之を慰さめんとて來り玉へり。吾人をして彼に伴なひ趣かしめよ。姉妹は何如に彼を迎へしか、而して彼等は如何なる安慰を得たりしや。

マルタとマリアは、二人ながら同じき言葉をもて彼を迎へたり。主よ、汝ちもし玆に居ませしならば、我兄弟は死ざりしものを、と。二人ともに同じき言葉を放てり。さらば彼等は同じき悲哀を持てりや。吾人少しく密に之を視察すれば、その決して然らざるとを認たむ。之に相違あり、その相違は、二人の性情の相均しからざるより出づ。

然れども亦た之に同じき所ろあり、其同じきは、殆んど均しく其兄弟を愛し、亦殆んど均しく其主を敬重せしによる。吾人は先づ、本來彼等が性情の太甚しく懸隔せしにも係らず、殆んど同じき悲哀を以て相類したる言語を發ちたる所以は何の爲ぞと云ふとを考ふべし。而してのち、實は其悲哀する所の根柢に於て相似ざる所ろのもの存するとを示すべし。

痛ましきは、今や其信愛せる兄弟ラザロを失ひたる二人の姉妹にてあり。その之を悲しむや相讓らず、而して、彼の「マ

ルタと其姉妹とラザロとを愛せし」てふ此神聖なる友人に委頼傾倚するの情も亦相似たり。姉妹はともに與に病める兄弟の床の側に侍べり、一つの心を以て之を看し、相合して、エスの許に「主の愛する者病めりと言遣はせり」。彼等は憂ひを一にし、且つ同一の醫師に向つて訴たへたり。其願ひは二人にて言遣はせり、願ひの必らず聞届けらるべきとに付ては二人ともに毫も疑がふ所なかりき。二人ともに心を疑めて主の來り玉ふを待てり。凡そ幾干の時間にて到來し玉ふやと、旅程を計り、尤とも早き時限を算へ、之を信じつゝ、病める兄弟の顔を見凝めて待てり。病める人は追々に衰ろへ行く、あゝ、主は、今ま來り玉はん、その時は病ひ忽然として瘉えんと。

左れど此の預想は悉とく徒然なりき。時は空しく過ぎ、主は遂に來り玉はず、屢ば外の方に出でゝ見れば、主に伴侶する人の影だに見へず。たま〳〵足音を聞つけ、主の御聲せりと思ひたれど、是も亦空なりき。

あゝ、其思ひ煩らひも、其願ひも、其切なる祈禱も、皆な効なかりき。ラザラは死せり。姉妹が悲哀そも幾干ぞ、その失望また幾干ぞ。

すでに死したれど、尚ほ温まみあり、今もし主來り玉はば、尚ほ再生るべし、世の常の醫師には最早望を繫がじ、我が主の不思議なる業は斯るときにこそ顯著しかれ。アヽ、主は今や來り玉はん、將に今や來り玉はんとす。

されど之も亦た空なりき、ラザロ死せしのち四日を經たり、其亡骸は墓場にあり。

狂へるが如き悲哀は今や靜まりたれど、涙なき靜けき悲哀こそ、更に苦しかれ。記臆は層々として憂ひを重ね、家の內の光景すでに亡き人の姿を寫す。心より慰さめに來る人もあれど、たゞ儀式の故に見舞ふ人もあり、風に冷温あるが如く、人の言の葉に眞僞あり、僞はりの慰さめは無きこそ善けれ。主は來り玉はずして、輕薄なる人は來れり。あゝ、主よ、主よ。

遂に彼れは來れり、左れど餘り遲く來り玉へり。然れども、其の慰さめは、万人の慰さめに愈る。主よ、汝もし此に居ませしならば、我兄弟は死なざりしものを。父の歸り來るに會ひて其の留守中の出來事を訴たへ、勇士にあひて其の在らざ

りし時の困苦を告ぐるよりも倘切なり。姉妹が、其兄弟を愛し、其主を信ずるの情に至りては共に一なり。

英國廢娼會年報を讀む

英國に八年前成立たる中央警戒同盟(Central Vigilance So)と、六年前成立たる英國警戒協會(National Vigilance Association)との二つの廢娼會あり、去年合して一つとなり、其年報を發す。

會長は、ウエストミニスター公爵にて、副會長は九人あり、中に、レデー、ヘンレー、ソマーセツト。フランク、モリソン夫人。ヘンレー、フホーセツト夫人。ジヨセフヒン、バツトレル夫人など列ある。

去る一年間に成したる主なる事業は、第一、欺かれて外國より勾引され來りたる婦女子を救ひ助くるにあり、中にも日耳曼より來りしを救ひしと多かりければ、去年、日耳曼皇帝英國へ來遊の砌は、本會の書記クート氏に禮謝して、ダイアモンドのピン(とめ針)を贈られしほどなり。

第二は、惡しき男に欺かれ、不都合の取扱を蒙むりたる乙女子の爲に盡力し、其遺恨限りなき情をはらすにあり。第三は不道德の文書を防がんとて、特に佛國輸入の惡小說を禁止するとにあり。第四は、惡習に染み、意志の制裁を失ひたる不德婦人が、いよ〳〵誘われて惡路に陷いるとなからん爲に女子のみの爲の病院と云ふを設け、醫師、看病人を一切女にして之を治療保護するとにあり。

大要は此類の働きにて、去一年間にも夥たゞしき公益を爲したりとぞ。ジヨセフヒン、バツトレル夫人が二十餘年間の盡力により、所云る公娼なるものは既に廢せられたるなれば、今は斯るあと方付の廢娼手段のみに從事し居るこそ浦山しけれ、吾黨が日本に於ける事業は、即はち二十餘年前に於ける、バツトレル夫人が行爲を爲すにてあるなり。

去一年間の收入は、寄附、會費、利足等合して、二千八百三十九ポンド(凡そ一万四千二百圓)、此內、殘金、百八十二ポンドにて、其餘は悉々く此の年の內に義の爲に使用したりとぞ。

岡山孤兒院を見るの感

藤井米八郎

舊冬備前岡山の孤兒院に到る當時養はるゝ孤兒百七拾餘名震災地の孤兒も亦此内にあり、小橋勝之助君は予より先に岡山に來られ偶々予の訪ふに會ひ其夜を孤兒未來の談話に深し翌朝其案内にて孤兒院各部を巡見す。岡山孤兒院は大なる寺を本部とし裏手には數多の墓石あり外に亦四五個の家屋あり何れも皆孤兒の就業處敎處にして病院あり前田英哲君之が病長たり活版部あり活版を組む孤兒七名あり理髪店あり理髪なす者六七名亦麥藁の眞田を編者八九拾名米舂者十名斗あるやに覺ゆ其外糞桶を擔ひ田圃に出で或は耕作なすなど頼母しき健兒あり其勇壯なる有様一見惰夫を起しむ、而して之が敎育の任に當れる人も孤兒と等しく畑を耕し菜園に糞桶を運ぶ森君の如き此也亦小野田君の如きは米を舂つゝ讀書せらる此境界を見て予は愧死の思ひありたり此冷たき世に斯る獻身的の一團躰ある事を感謝して止まざりき岡山孤兒院が敎育法の當否に就ては見聞淺く玆に予が愚評を容るる必要なきなり然れど孤兒院が今日の如く長足の進歩を成したるは人爲の結果に非ずして石井十次君を首とし之に預る人々の信仰に因り身を献げ主の御力に頼りし結果ならんとを信ず。歸途小橋勝之助君に同行し播磨赤穗郡矢野村の博愛社即ち君が家に至る玆に滯在する事二晝夜見聞岡山に於けるよりも稍や詳密なり思ふに此矢野村こそ最絶好の地なれ矢野村の地四面山を圍みたる谷間にして空氣清好風涼調ひ世俗腐化を離れ末然として昇らんとする一種の風光潛伏せるが如き感あり而して社には數町歩の山林田畑あり小橋君は予を田圃に導て告て曰く健固の農夫屈强の壯士新日本は之を切に求むと。

小橋君に四人の舍弟あり皆力を兄君に併す殊に實之助君の如き、兄の衣類を自ら洗濯せらる。故に、小橋兄は之を其妻なりと云へり。

嗚呼神に謙遜忠實たり人に博愛親切なる小橋愛兒は嚴冬霜雪の中或に夜を冒し或は食を欠き辛酸五十餘日幾多の心勞を震災地に修め今や凱歌を奏して故山に歸休す愛兒久しく肺患あり且つ粗食して胃を傷め歸休の初は躰狀大ひに惡ろかりしが今日稍輕し其の信仰により他日回復せらるべきを信ず予は兄を慕ひ孤兒を愛し彼の地を去り難く思ひたり二回酪農を說を演述し暫らく別るゝの記念を殘せり予去るの朝兄が舍弟君は數十丁の遠きを送り給へり予は博愛社の上に小橋愛兒の健固の上に祈りて止ず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家政

看病

山下石翁

人を助くるは、其尤とも憐れむべき時にあるべし、人の尤とも憐れむべきはその病める時なり、此病める人を助くる看病こそ慈善の最上なるものなれ。人に道を説くは、人、その本性に反り、尤とも切に人情に温たかなる時にてあるべし、人の尤とも人情に温かきは其病める時あり、此病める時に傍らに侍べり、道を信ずるが爲めの善き行ひを顯はに示すとを得るは看病者なれ。看病者こそ、最とも功多き傳道者なれ。此度び震災地に於て、人々を尤とも強く感動せしめたるは、看病婦なり。看病婦は、現に、最上の救濟、最強の傳道を爲したり。

たゞ專門として看病を學ぶものゝみ然らず、何等の婦人も皆な一と通りは此の業を心得置るべきなり、此度び震災地に趣むきたる看病婦には、專門の人少なし、多くは、女學校の女生にて日頃ろ幾分の心得ありし人々にてありき、些さかの智識も非常の愛あるによりて温ためられなば、斯る驚ろくべき善業を爲す。

家にありて、病める良人をいたわり、頑是なき幼な子の病をみとるなど、皆是れ婦女子天命の重き職にあらずや、病は七八分看病の何如によりて救はる、而して看病の徳とは九分以上たゞ愛なり、愛ある婦人ならでは何ものか能く此神聖の職に當らん。

既に一家を掌どれる婦人方は、看病の一と通りを説きたる書物にても御覽あるべし、赤十字社にて出版せしものなど宜しからん。女學生は是非とも女學校に於て學ばざる可らず。而して女學校の科程中に此の一科を欠く可らざるは勿論也。

○信徒の天然痘看護

佐々木笑受郎

花々しく打て出で巨臂の內に天下を掌握するは男兒なり柔和に愛の淚を以て細腕に天下を提ぐるものは婦女なり余過ぐる頃濃美の震災地に在りて其慘狀に對する慈善的運動の幾多ある中にて其愛情に余が感覺を最も強く刺擊したるは傷口に溢るる膿を啜る看護婦の働なり宜なる哉入院負傷者の合掌して神と之を拜し叫んで母よと云ひしや。

近頃我横濱市内非常の猖勢を以て天然痘蔓延す日々該病に罹るもの平均十有餘名避病院は已に當初より二百五十名以上の患者ありて内五拾名餘は不幸にも鬼籍の人となれり元と避病院醫師の乏しきにあらず看護人少にあらざるべきも患者の數前記の如く恐らくは看護の行届ざる今日の死亡者の多きを致す原因にあらざるなきや然り然らば此時に當り人の最も忌み人の特に避くる該病者の看護を爲し一は以て彼等肉躰の運命を更に永からしめ一は以て彼等靈魂の永遠に其生命を保たしむるは實に吾人の正に涙を流して爲すべきの事ならずや

キリストの僕 婢を以て成る此大會に奮勵興起進んで此任に當らんとする兄弟なきや姉妹なきや若し夫れ不幸にして此看護に從事するの時諸君を襲ふて諸君の玲瓏花の如き顔を變じてパンの如く浮石の如く化するに至るも豈に恥づべき事ならんや豈に恐るゝ處ならんや記臆せよ他日主の臺前に立ち「汝の面上の痕跡は如何」と主の聖問に接するの時諸君の謹で答ふる處は如何に愉快なるべきかを。

進んで此任に當らんとする兄弟姉妹は乞ふ不敏なる余と共に談ぜよ。

とは余が去る六日横濱聯合初週祈禱會にて來會の兄弟姉妹に訴へし處なり然るに幸にも聖靈の大ある助を蒙むりて余が以上の語を訖るや一人の姉妹「聖旨を得ば婢を用ゐ給へ」と祈り一人の兄弟は「余行かん」と余に告ぐ而して今日までに四名の熱心ある兄弟姉妹を得たり何ぞ其勇ましきや余今此勇ましき人を世に紹介せん爲め左に其名を記さん若し夫れ其働の實況は后日の報に詳しかるべし

坂西政造君　田鑼ふみ子　松宮革造君

松上たか子。

若松しづ子病氣全快次第

追　々

フヲワー、ヲフ、ゼ、フハミリー

を譯述すべし

小公子と一對双美の觀を呈

すべしと信ず。

小說

流の葦

第七回　森（上）

是空子

深淵に臨めば、自づから落下せんとす、淵の靈手を伸して吾を引入るゝ心地す。此故に、千金の家の子は危ふきに立たず。感情銳敏の人は、眩めく邊りに近づく可らず。俗諺稱して之を死神の招くと云ふ、死神の招くにはあらず、神經の作用筋肉を激動して、人の進退を促がすに因る。

二輛の車を連走せしめて、上野山下の近くに來りし乙女あり思ひ出せし如くやと呼とめて親らは車を降り、妹と見ゆる稍や年若きが乘れる方に歩み寄りて何やらんさゝやき、己が車夫に暇まを與へ、獨り別れて、山の上に行く。

衣の裾を風に飜がへし、ふら／＼と歩みて、行く所ろを定めず。何事に思ひ屈してか、忍ばずの池夕日に映る面の蒼白きを木の間／＼に眺めては歎息し、快ちよく輕歩して涼を談笑の間だに迎ふ氣輕のそゞろあるきを羨やみては、反つて冷やかに笑ひ、一望して涯りなき都門百万の甍を見て、狹き心の長大息を發ち、彰義隊の墓の前に線香の煙の細きに消え入り、大佛の無言無想にして憂色なきを高しとし、杉の林の森々として天を摩でんとするを見て、あゝ皇天の雲漠々何のゆへに聞く所ろなく、憫れむ所ろなきやと怨らみ、心の定まらぬまゝに歩みを亂し、そこはかとなく逍遙して行く所ろを知らず。

晩鐘はいとさびし氣に鳴りぬ、其音の歩ゆむ所ろ、天地一時に靜まりて、晝の忙はしき氣色俄然として變ず。夜の神は、則はち鋒を立てゝ云く、今よりは我が世なりと。煌々たる日の神も暫らくは其政事を止めざる可らず。

早くも、一つ二つの星、森の木梢に出づ。木影やうやく暗らし。人の往來、前后に心置かる。巡査一ときは思を配るか、出で會ふ人皆な疑はるゝ心地す。

彼の一女子は倘ほ踉踉として行く、大方は下を向きて歩み、時々は天を仰ぎて歎息す、又ときに左右を顧りみ、俄かに心づきたる如く足早に趨け、暫らくして又た思ひに沈む。

圖書館の巻億に達すとも、生きて人を慰さむるとなし、音樂校の琴、能く塵を動かすとも自ら鳴つて人を說くと能はず、

空を飛ぶ鳥ねぐらに歸れど人を安宅に誘はず、竹村の雀しきりに喃々すれど、何如んぞ能く人の心中の苦を悟らん。憂ひある人には、万物皆無情なり。

天王寺の塔細く天心を指ざすを見て、ふと立とまり、

あなや、此處はすでに谷中なりけり、彼人の御住居には近ふなれり、望みを果さんには遠くなれり。

獨りつぶやく言の葉は、たゞ言の葉を知るらし。風に飛散る便りもあらず。

小暗き墓地に入りて、柳の糸の細く首の邊りを撫づるを拂ひ、サと振つて木の葉一つ身を落すを避け、朦朧として黒きが如き聳ゆる高き塔に近づき、腰うちかけて、空の星を數ふ。天に聲きこゆ、星の談話するに似たり。流星飛ぶ、極めて忙はし氣なり。あゝ天も亦た安からずやと、伏して足のほとりを見れば、天のかしましきに非ず、耳の熱して鳴るにてありける。

耳を石塔の冷たき石に當てゝ冷やせば、塔の下に最と細やかある聲きこゆ、粟然として身の毛よだつとき、虫一つ飛出でたり、あゝ汝ぢは吾友なり。

遥かに燈灯の光見ゆ、漸やく此方に來る。こゝも亦た浮世の人の訪ひ來れば天ゆく雲に身を任せてん。思ひ出づる古歌を心中に暗らんじつゝ、歩みを更に墓地の奥に向ふ。

夫れ結婚は一生の大事なり、男女終生の方向過半此に決す。父母に子を愛せざるものなし、誰か其子の婚事に思ひを勞せざらんや。たゞ、古風の父母が思ふ所ろは、今の學識ある女生が思ふ所ろに異なる。父は云く、多少品行の修まらざるとありとも、男は技量あるを可とす、我娘は、立身の望みある才子に嫁せしめんと。母は云く、辛棒は女の道なり、夫の無理を言わるゝに忍ぶは妻の徳なり、たとひ合わざるの男子ありとも、自から屈して之に合ふべし、母は即はち其辛棒を爲し遂げたりと。かゝる父母の鑑識をもて撰まば、之を撰むといよ〳〵精しうして、いよ〳〵女生の望みに遠ざからん。女生は云く、妾は才子を望まず、妾は富者を望まず、妾は浮世に名高き人を望まず、たゞ眞實忠直にして義しき人を望むと。されど、父母は之を書生論なりとして可かず、女生未だ諾せざるとき、結納の品既に到來し、知人早く空々しき祝詞を述

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

べ來る。

母あらば、切めては母に訴たへ奉らん、母に申上んは、父に聞ゆるよりは易し。されど母なくして、たゞ父に仕ふる乙女こそ憫れなれ。而も、心雄々しきのみか、何事をも遠慮なく言ひ出る人こそ寧しろ幸はひなれ、生れて心やさしく、八方に氣を兼ねて、一身を何事の犧牲にも供へんとする、優ある可憐の淑女こそあはれなれ。尙且つ寃罪を負ふて言ひ解かんともせず、死ぬる計り思ひ凝めて打明くるともせず、万事を胸に鎖めて、ひとり天地間に煩悶する人こそあはれなれ。斯るあはれむべき人何所にありや。蹌々踉々として、今宵、天王寺內、森くらく、骨埋もれる、墳墓のあたりを徘徊す。上野の鐘初更を報ず。森の彼方に庵室の僧侶木魚を叩く。喪家の犬、積れる木の葉を踏みてさはがす。新葬の墓、白色の燈に微か燭びうつる。其の影の映るところ眞黑きよりも、さびし。遙かに轟ろきたる車の響も今はたへ〴〵なり。誰ありて、今しも此の墓石累々たる界ひに徘徊せん。たゞ、あり、一人、しきりに考がへつゝ歩み、ふと、枝を垂れたる大樹の下に來りて見上げたり。

批評

○井筒女之助

ちぬの浦浪六氏が作なり、文章は「三日月」に劣り、所々破綻變調なきにあらねど、例によりて意匠結構甚はだ味わいあり、演劇に用ひば如何にと思はしむるが、此の人の作の常例なり。但だ小說として一個のキヤラクターもなきは相變はらず遺憾なれ。ひとり、主人公、女之助の言動に於ては、作者の用意凡ならず、艶にして偉なると殆んど讀者をして恍惚たらしめんずる景光あり、而して、一片愼密の才氣到る處ろ此の主人公の上に現はれ、例せば、新發田靱負を獄中に尋ね、少刻由緣を談じて出で行く砌り、「鐵燈籠の火を搔立てつゝ軒に吊して行く」と云ひ、もしくは、深夜尼寺にをとづれて「ぬき足して、潜み入つて椽端に這ひ寄り、布に含ませし水を絞つて、閾に濡たらし」と云ふが如き、何れも大勇者の着意を巧みに添布したり。末段、露姫はかなく狂するところは言ふ迄もあく壓卷なれど、夜更け人定まりしころ、山中幸盛が、柴の扃そを叩きて、止みがたき奉仕を辨ずるの條りは、ほとんど

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

英雄の末路を弔歎せしめ餘すなし。姫が辱しめに合ふの趣向は唯一つの瑕瑾にて、なくもがな、刺し殺すは之が爲めなりとせばいよ〳〵不可なり。此狂婦人を娶るの結末に畢らんには、非常の出來ありしものを。

小公子の評。

（其一）

中島とし子

東京へ行けば必らず御尋申さんと思ひ御地へ參りてのちは議會すみし上にてなど思ひて遂に御疎濶申上候新しき春昨年よりも更に賑はしくたのしく御暮しの事と御察申候てうれしく感候

小公子昨冬横濱の方へ御送り被下候處横濱に問住の母直に東京へ回送いたし呉候得共時議院開會の折なれば何となく心に暇なく尤とも雜誌にても拜讀せしかども南紀旅行中は斷へし所もあり是非通讀せんと樂み居候て風塵十丈の東京より白雪綠松の草堂に歸り肅殺の冬も去て陽和の春も來りしとなれば一盆の水仙花香も淸き小書齋に昨日漸く繙くを得候簡書を讀得るの自在なると文藻の豊富なるとに非ればさても〳〵と思候たとひ讀力の自在なると運筆の豐富なるも其人にして胸底温かき愛情を充たすに非れば如此妙著の筆し得らるべきに非ずと深く感じ候一讀せし世人も何如許り驚きしとならんと察候この小公子妹が知らぬ人の筆に成りしと雖も妹は譽めざるを得ざるに況して親しき友の手に成りし妹が鼻高御察し可被下候當時は御病氣何如に候や可愛らしきもの〻増候ため最早病も御快と存候得共寒さの時節は一層御加養可爲遊候今朝早起窓を推せば山下の頽壁破墻悉く瑤樹瓊台と變じ雪景不可言候よしはる樣へ宜しく御傳可被下候………

俊

おかし樣

（其二）

石橋忍月

見渡すに女學雜誌主事巖本善治妻譯述（此所廣告の文字借用）小公子に關する諸家の評總て上評ならぬはなし女學雜誌の面目若松女史の滿足如何ならん思へば羨望に堪へざる次第なり「忘れ片身」以來の御腕前、筆に一片の華なく飾なくして好評を博す最早吾文學界は華飾を除けて質實を尊び外形を忌みて内面を嗜むの域に達したりと謂ふべし當年感念論を唱へて貝屏風を嘲りし人、小說家責任論を辨して悲憤せし人等の滿足想ふべし

小公子の評判此の如く上々吉なりと雖ども熟々考ふるときは暫く憎まれ役となッて此贔負ある良書にケチを附けざるべからざるものあり

人間にはこわい物見たがる嗜好心あるが如く亦た實極端を喜ぶものなり玆に一人物ありと假定せよ平常或る點に於て極端の行ひをなし一朝急に變じて他の異りたる極端の行爲をなす筆硯若し此人物行爲此變轉を寫述せば實に勞少くして賞賛を博する大ならん是れ人の嗜好に投ずればなりアヽ嗜好は實に人間の弱點なり

本書小公子は實に人間の弱點に乘ぜしものなり之を評する者も亦た自己の弱點を棚の上にあげて顧みざるものなり

極端なる人物若くは極端なる事實を仕組みて讀者の喝采を博することは何人にも出來得るなり且つ之を寫述するにも凡そ極端の脚色ほど寫述し易きはなし

本書は一ッの老人と小供とを結合す既に年齒の上に於て極端なり一ッの剛情傲慢無慈悲なる人物と一ッの可憐優美無邪氣なる人物とを結合す既に人物性質の上に於ても亦た極端なり其他八百屋靴磨奴等と侯爵の若樣とを結合す是れ亦た身分貧富の點に於ても極端にあらずや

本書は此の如く或る極端と他の極端との結合なり、結合するが故に衝突あり衝突あるが故に屈折あり移行あり若し夫れ斯の極端を除去すれば本書の妙味なし極端に依賴して漸く命脈を保つ本書も亦た憐むべき哉弱點に乘ぜられて自ら悟らず讀者も亦た迂なる哉

斯く論ずればとて予は決して此功勞ある命令名ある譯述者の手腕を貶するにあらず又敢て原著者を難するにもあらず只「極端」は老功なる文人が手腕を振ふべきの舞臺にあらずして終に他の嗜好を犧牲にするの惡弊に陷ることを示すのみ

（國民之友第百四十二號）

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○何如にして官黨を增すべき

既に國會制度を建て、代議の憲法を施こす、政府たるもの、其黨員を議場内に增加せんとするは至當無論の事なり、然れども、政府は何如にして其黨員を今回の總撰擧に於て增加せんとするや、試みに問ふ、其手段何如ん、手段の公けに現はれざるは隱密に行はるゝなり、而して隱密に行はるゝ味方增加策には樣々の宜しからぬ事存せずんばあらず、吾人は深く之を惜しむ。

○二月十五日

いよ／＼二月十五日と定まりたり、蓋を開きて后ち、畢觀人目を驚ろかさずんば幸はひなり。

○震災地の二月末

同じく二月なり、國民擧つて撰擧狂走の二月を見るも、震災地極貧者の救育同じく亦二月に盡るとを顧みず、哀告す世上の仁者義人、目を白票紙の上にのみ注がず、去つて彼の家倒や族死せる地方の同胞の上に注げ。

○明治二十五年

二月十五日總撰擧畢り、四月初旬第三期帝國議會開け、爾后九十日以内の舌戰あり、蓋し六月に至らん、后ち四ケ月に越へず、復た年末の常會ありとせば、明治二十五年は唯國會事件を以て畢らんか、新聞紙面も此の單調子なるべし、世上の風評も此單調子なるべし、切迫にして餘裕なき全國民の意想も總て亦單調子なるべし。あゝ、鐵道開けて日本國の地は小くなり、國會開けて日本國の時は短くなりぬ。綽々光風の爲に餘り好ましくもなし。

○自由黨宣言書

政府之を告發すと云ひ、或は告發せりと云ひ、或は無根なりと云ふ。然れども、もし告發せずんば、吾人は皆な宣言書中の事實を公認せざる可らず。何んとなれば、今の政府にして事實無根の事柄を其儘に放任するとあらざれば也。

○陸奧君

大隈伯に書を送りしか、非か、板垣伯に茶器を約せしか、非か、誰ありて、堅然其有無を證するものあらん。然れども、凡て斯る風評は、被告者自身の辨解にては人の信ぜざるもの

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

也、何すれぞ、二伯の執事を煩はすことなき、之を辨ずること極めて易々なるにあらずや。

○欠禮

年賀の欠禮は、士君子に恥かしき所ろあり、吾社、夙とに之を辨じ、今や、日本子の協賛を得たり、如此き事禮の國粹保存は願はしきものなり。

○孤女學院

吾等が姉妹は皆な孤女學院の主旨に贊成せざる可らす、而して其發起者は未だ公然世人の助力を仰がずと云ふと雖ども、志あるものは何如んぞ之を放任することを得ん。甲府の有志婦人率先して數十圓の金を之に義送し、横濱の無名氏亦た十圓を寄せたりと云へり、吾人深く祝す。

○賞杯

賞杯は、賞酒を與ふるの形なり、而して、其旨、賞するにありて、酒にあらずと云へども、凡て賞推に、此の毒物を用ゆるは、國風感化の上に害少からずとせず。吾人も亦久しく賞杯の止められんことを望めり。今や、横濱禁酒會長が、愛知縣水害義捐金に對する賞杯を辭還せるは頗ぶる可なり。

○實業家相談會

茸の如く一時に萌出でたるものは、亦露の間に枯るゝものあり、然れども、茸は自然の發動によりて生ず、倘可なり、人爲即席の製造に至りては、壽命更に短ならんとす。吾人は今より其終末を弔す。

○僧侶の超然主義

大同團の經驗の無効なりしに因るか、或は自家立脚の既に危ふきに因るか、抑そも亦た眞理に發悟する所ろありたるによるか、兩本願寺を初めとし、寺院は本回の議員撰擧に關係せざることに定めたりと云ふ。願はくは、裏面の實際も亦た表面の告白の如くなるべし。

○武道

武道いよ〳〵榮あり、仙台の東北學院、青山の英和學校、亦た道場を建てたりと云へり。

編者微恙あり本號の印刷少しく遲延せり、諸君に達するの時限例よりは半日後るべし、之を謝す。

女報

あい子編

●皇太后陛下　陛下には天保四年癸巳十二月十四日御誕生にて本年は六十年を履ませらるゝが來る二十三日は其當日なるを以て在京都先帝奉仕の女官及び九條家舊臣等賀辭を上つるものあり。

●行幸啓　天皇、皇后兩陛下には去る十一日午後二時御出門御一列にて御年賀として青山御所へ行幸啓あらせられたり。

●天皇幷皇后兩陛下の御賀記　芝區愛宕下町學校新聞社にて發行の學校新聞は去日發兌の第十七號より我天皇幷皇后兩陛下の御賀傳を掲載せり。

●皇族の御旅行　有栖川威仁親王殿下には去五日同妃殿下は六日新橋發逗子別莊へ赴かせらる。

●東宮職女官の廢止　東宮職女官は本月四日東宮殿下熱海へ行啓後同日を以て廢官の旨宮内大臣より通達せられ主事より其旨女官方へ達せられたり。

●孝子　大阪西成郡の孝子某、母の食膳に供せんが爲に一尾の鯛を屠る、刀下るに及で戛然と響して腹中より一種の光り物迸出す、取て之を見れば則ち五錢の銀貨なり末世澆季と雖も至誠天に通ずれば此奇特あり何ぞ雪中の筍を怪しまんや。

(東京日々新聞)

●生徒の龜鑑　上都賀郡日光町大字日光士族船越廣吉氏の三女ひろ女(九年八月)は去明治二十年五月中日光尋常小學校に入り廿一年四月中定期試驗には一年級修業の優等生となり縣廳より硯箱一個を褒賞され翌廿二年二年級の修業を卒りたる際には優等褒賞として同じく縣廳より修身談一冊を授與され廿三年三年級定期試驗の際には同様優等の廉を以て小學地理教授本四冊授與され昨廿四年尋常卒業試驗の際にも同様優等卒業として勅語衍義一部授與され其後引續き高等小學校に通學し居る由なるが同様生徒四百六十餘名の内若干の優等生はあれども此のひろ女は同じ優等生中にても一段秀でゝ能く學事に心を潜め品行も亦頗る方正に教師の訓論を守り入校以來一度も譴責等を受けたることなく家にありては能く父母の命に從ひ片時たりとも無駄に時間を空費するとなしと實に感ずべき少女なり世の腕白兒や蓮葉娘此のひろ女をみならひ龜鑑とすべし。(下野新聞)

●木杯下賜　東京府高等女學校にて昨年十一月中東京府養育院へ入院者の衣服を無代價にて裁縫せしを以て不日府知事より木杯を下賜せらるべしと申す。

●賞杯の辭退　横濱の日本禁酒會より先年中愛知縣下の水害者救助のためとて贈金せしに同縣廳にては此程奇特の事なりとて同會へ木杯賞與の沙汰ありしかば同會長林翁氏は態々參廳の上同會の主義は務めて飮酒を禁じ民力養生の意を達せんと團體的の誓約を爲し專ら禁酒の勸告を主張し居るに如何に賞與の恩命とは申しながら酒杯の拜領はなり難しとて一篇の書面を呈し辭退したるよしなり。

●熊本英學校と熊本女學校　の兩校は蔵原惟敦氏を校長に聘したるを以て熊本英學校へ來る十一日熊本女學校へ同十二日校長就任式を執行せらるゝ由。

●女生徒の試驗　本縣知事より高等女子師範學校へ入學を撰擧せし神中みさを外二名に對し去る十三日午前九時當地師範學校において試驗を行ふよし。

(神戸又新日報)

●看護婦募集　東京慈惠醫院にては來三月看護婦生徒十五名試驗の上募集する由

●白耳義の第一等女記者　「ジュルナル、ド、ブルジユ」新聞の主筆記者となり白耳義に於て第一等記者の名を博せしカロリン、ポツプ夫人は昨年十二月二日行年八十一歳にて卒去したり。

●ライドアウト夫人の名譽　シカゴ萬國博覽會にては婦人室の裝飾に供せんが爲めに婦人彫刻家に向て賞をかけて彫像を求めたりしが數多の出品中ライドアウト夫人が刻成せし彫像に及ぶ者あらず依て審査委員は全夫人に一等賞を與へたりし蓋し此の像は高サ十フイートにして優雅なる臺上に集ひたる三人の婦人より成る者なり此の三人の婦人中天を仰ぎて直立する者は婦人の德を表し高尚無邪氣にして潔絶淨絶なる趣其容貌に溢れたり其左足の下に坐する者は愛とサクリフイスを表したる者にして聖盃臺上に寶玉を弄する容貌中自然に彼の兩意を表し其の右に坐する老母は慈愛の情を表したる者にして一方の手を以て可憐なる小兒を其胸にあて他方の手を以て其の膝にまつばる裸体の小兒を撫でなるの圖にして若し之を仕上る時は最も小なる者にて千五百弗より二千五百弗其の大なる者は二千弗乃至三千二百弗に價ひするならんと云ふ。

●山梨婦人會　全會員數十名には昨日正午より當市百石町竹澤せん子方に集合し例の如く種々有益の談話其他遊技等あり散會したるは午后四時頃なりしと。

●師範學校女生徒同窓會　遠州濱松町元城の報德館に於て去四日靜岡尋常師範學校女生徒の同窓會を開きしが會する者二十餘名にて席上に唱歌演説等ありて中々の盛會なりし。

●共立婦女速成裁縫教育會　は志太郡藤枝町蓮生寺内へ設立し重に日本服の裁縫婦人禮式又は茶の湯、活花、押繪等を教授する目的なりと同會教頭は中津衣江取締は長谷氏尹の二氏なり。

●大野婦人矯風會長の送別會　御笠郡大野村なる同會は客年四月より山鹿千代子姉會長となり地方德望の人々之れを贊助し毎月二回講師を聘し婦女子に適切有益

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なる講話等を爲し漸次隆運に向ひしが會長山鹿姉は今度蘆屋高等小學校へ教師として聘せられる事となりしかば此程大野村河波氏の宅に於ゐて送別會を開き會する者百二十餘名席上京極姉開會の趣旨を演べ次に君ヶ代をうたひ夫より會員總代藤ナル子の祝文山鹿姉の答辭あり終て宴會となり互に別を惜み且同會の將來を話し和氣洋々の間に退散せしは午後四時過なりしと。

●外國少女の稚兒髷　近頃此の結樣外國少女の間に流行し新年祝賀として一昨日英國公使館を訪問したる少女中にも多く見えたりとか。

●鶴賀花街の娼妓の原籍　を區分すれば新潟縣二百二十五名、當長野縣四十一名、石川縣十七名、愛知縣二十六名、東京府二名、群馬縣一名、埼玉縣一名、富山縣一名、京都府五名、滋賀縣一名なりと云ふ。

●廢娼論者は參考すへし　新潟新地遊廓の昨年一月より十二月に至る遊客人員は一万五千七百六十八人にして此淫飲食料は一万四千六百〇五圓九十六錢なるが之れは其筋に屆出てたる所にて其の實は此の三四倍にも及ぶへしと云へり尚ほ昨年末現在の藝娼妓は五十八人にして貸座數は二十七戸なり。

●遠江通信　遠江榛原郡基督數徒婦人今回婦人會を組織し聖經に併せて家政育兒等を研究せんと目論中の由。

●山城通信　淀川沼岸の妓樓は維新後漸時にして取拂ひ其後槇村知事在職中再び妓樓設置を請願して却下せられしが是頃又同事を請願せり當地冬期休業歸省中の青年諸氏は之を默視するに忍びず茶話會を開きて之に對する運動を相談せり。

●高知縣通信　高知育兒會附屬產婆學校　に於て昨年十二月五名の卒業生を出だせり又目下同校に於て給費生六名自費生十八名募集中なり。

●高知教會有志婦人信徒　は昨年十一月第一月曜日の夜より每月曜日の夜集會し震災地に金圓を送らんが爲め裁縫、書簡袋の製造等爲し居りしが金額八圓集りしかば十二月下旬震災地へ向け發送せり。

●高知女子傳道學會　豫れて女學雜誌福音新報等に廣告ありし同會は愈一月五日同會教授商議委員列席にて入學志願者の信仰幷に目的等に就き試驗を執行せり其試驗の成蹟に依り入學を許るされし姉妹は片岡すが傍士かよ野村さきへ宮内とみへ曾我きよ田村みれの諸夫人令孃等なり翌六日午後二時高知教會堂に於て其開會式を執行せり同會教授は細川瀏氏、篠原方愛氏、マカルウエン氏、ダード孃、等なり。

●米國婦人禁酒同盟會　同會にては近日開會之節左之件々を決議せられたりと、曰く、一國之政治上婦人之高潔なる勢力の要大なるとを認識し且婦人撰擧權なるものは凡そ婦人之便利上及矯風上禁制すべき種々の件々の斷行を助力するに必要なるとを信ずるを以て以後我等同盟會は斷然婦人が一國幷に教會に對して一樣に政治上の權力を有すべき實際必要なるの場合には之を勸誘決行せしめ誠に教會內の位置及說法壇上の權に就ては各宗教上の團體は悉く同等の權利を有せしむる樣運動し其他生理上の發達に關し有益なる衣食法に對する攻擊は凡て之を保護し或は普通教育として躰育幷に實業上の練習に關する布令は其が實行を勉めて補助盡力せん。と云にありき。此議件之外他に不正なる著述繪畫の禁止令發布及國會は社會上不正なる事物調查之爲め男女より成りたる委員會を設けられん事の請願を國會へ提出せん事等なりしと云ふ。

●婦人撰擧權　又同會今回の會合は婦人之撰擧權に關し一般の人望の上に著しき進步之樣を呈せり、蓋し今回の集合に世界各國より代表者として集ひ來れる六百人は通常集るべき數を非常に超へたるものにして即此く數百の會が全國に蔓延し道德上教育之中心源泉を組織するものたるを證したり。婦人撰擧權の事とは今回第一の問題にてありしが會長ウイラードは最初に之を贊成したり、同會第一の報告は即はちワイチミング洲婦人撰擧者が同洲撰擧上の事に於ける報告なりき而して晚餐に於ける第一の祝盃も亦婦人撰擧權の實行を祈るが爲なりきと云ふ。扨て此件の實行を期し辨論せる人々の名を擧れば英國人バルガニー孃及ケートミッチエル女醫ミシガン州教授レナマイカ、エルス女史、カリフチニア州エミリヒットステブン夫人ニユーメキシコ州アンボルデン夫人其他メリー、レビット夫人、ルシー、ストーン夫人、ジヨセフ、クック氏、ボストン、トラベラーの記者ゼームスダン氏及ジヤッジモルトン氏等なりき。斯かる問題なれども過る年に於ては彼の王の隊(ワイチミング州民)すらも之に反對の聲を擧げぬ然るに今は開會中宛も聖經の朗讀或は金言の復誦なるが如くに屢々發言せられ出席する代表者は勿論聽衆に至る迄いつも贊成の語絶間なく而して會場にはワイチミングの一星を現はしたる旗を飜へしありき。されど今廿年程以前を顧見よ一千八百七十三年の十二月彼の婦人十字軍なるもの恐るべき運動を起せし當時、婦人投票權などロすさむものは、恰も朋黨の反逆者たるが如き對遇を受けたり、故に夫より三年の後ウイラード孃其が必要を確認して己が信仰を公言せるや、女史に言へるものありき曰く御身は率先者たるべしされど今は一の斥候に過ぎずと。此かる稱なりしも今は數年前に於て此擧の誹謗せられしとを記臆すべきリッパン、ウインゲルの間だに音を絶ち、再び聞ゑずなりぬ。

●万國廢娼同盟會第六回年會　同會は非常なる好結果を呈したり。當日忠熱同心なる聽衆は堂に溢るゝ計りなりしと。只惜しむべきはヘーローのウエルドン博士が欠席にてありき。蓋し府知事への約束により止を得ざる開會日の變更せし爲なりと、氏は十二ヶ月以前より一要件の決斷を此會に企てありきと、當日府知事は會主として樞要の位置に立ち尤も熱心なる同情にて同會が過る一ヶ年間に取りし事業の結果の著しきを擧て同會を祝し、且ツ一己人の說として、此業の必要なるを切論し猶同會の愈盛運せんを計らんと期せられたり、聽衆も之迄になき熱心な

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

る集合にして、特に著しかりしは其中より三ヶ國の人々の演壇に登りし事にして其一人は、セレスチン、エドワーズ氏なりき。又た當日フチーセット夫人が熱心敏捷にして而も沈靜なる風采は、大なる感動を與へたり。夫人は演舌の基礎として多くの事實を擧げ、遂に一層の勇を鼓し來集せる聽衆自身は即はち亦此事實たるべきものなりと辨ぜられし時は、比類なきの勢氣を與へたり。猶沈靜傾聽の間に言ひ出でゝ曰く、今日多くの事業中尤も困難なるは、弊風に染たる中より邪惡なるものを救ひ、獸類にも劣りたる計りの賤しき男女を起して、新らしき感想を與へ、絶望するものに望さ慰を與へ、穢れたる谷に沈める者に、淸き正しき道を敎ゆる等、心靈及腦髓の最も高き徳を要するものほど難きものはあるまじくさ、懇々說かれたり。又た同日グラドストーン氏より同會に寄せられたる返翰に曰く、最愛なる君よ、貴書により拜承せるは事業は當今尤も重大且切要なる事ならんさ存候、然れど今余が位置に於ては最早や新らに何れの事業にも關係致すまじくさ決し居候、拜復。グラッドストーン。

●英國救世軍の運動　同軍中の社會改良隊の運動は、愈々發達確固さなり、率先者が豫想は意外の滿足を得たり。統計表は晩近六ヶ月間の經過を報じて曰く、勞働社に加入せる無賴者のみにても六千九百二十六人の多きなり、其中千七百〇八人は旣に夫々の業を與へられたり、ブース將軍の著書「暗黑なる英吉利」を一讀する者は記臆せん、其が不幸なる貧民が竄身に置ける困苦の救ひを受けし第一步は、自から勤務するに初まりし手段を。此手段の結果如何にありしかは、以下の報告を以て明かなり。リード街に設立されたる給食及宿泊所にて、開場以來四週間に賣出したる食料切符は八千八百九十八の多きにして、其中四千二百七枚は一ペニー（二錢）宛、一碗半ペニー（一錢）のもの四千六百八十五枚、猶我國の五厘位の價に相當する食料切符五百六十五枚計なりしさ。此くして食を得働くとを得るものは漸々相應の居住を得たり。此軍は又二箇の救濟所ハーバー及アークさ名くるを設け、玆に開場後三ヶ月間食料の安切符を賣出せし事、十五万八千二百〇九枚、宿泊券を與へし者一週間平均二千三百十六枚なりさ。而して百六十六人は靈魂の貴きを知り、罪を改悔して幸福なる生活を得るに至れりさ云ふ。此く多くの賤民は食物及宿泊を乞ふを以て、救世軍は此かゝる場所を倚諸所に設くるの必要起り、今はライムハウス、ホワイトチャペル、ポイン街、ウヱストミニステル及びロイケンウエル等に各々設立したり、かゝる結果さして同軍の隊員は猶合して六千四百三十二人の不幸の人々を每夜宿泊せしめ、樂しき救世の集會を催し、讃歎感話等に慰められ、漸々罪惡を知り、一樣なる幸福を人々に與ゑんさ我等を呼び玉ふ基督の御手に近づくの喜びを得るさ云ふ。此の如きの樣故に此運動の勢ひ何れに迄進むや其度を知らず、今や漸々步を進め、且つ近々には救世軍の向はんさする彼の印度なる未全く主の救を受得ざる哀れむべき又經世上尤貧なるもの等に如何に多くの幸の降るべきか、こは又非常なる救ひの働きあり。

○東洋婦人敎育振起會　同會の名稱は大に不當の處なきにあられども、其働の忠實なるは實に感ずべきなり、多くの會の設けあるなかに此會程目の當りの結果を見ると少なき會に於て、猶婦人等は熱心に働かれ、集りは各々の家に週會して、會用の物品を預かる爲に十八磅を要するの外、一の支拂なし。出來得る丈は公會の物品賣買慈善賣物會等を省き、敎會は各自己の所にて相應の品を賣り、爲に昨年は三千二百四十九磅の收入あり、而して內國のみならず、印度、ペルシア、支那、其他各處の傳道會は、皆之に協力せらるさ云ふ。

○スーンデルバイ夫人、ポーワー　印度婦人は政府の不德なる法律に關して永く一般の沈默を爲しぬ、今や印度なる基督信仰者ポーワー夫人は此沈靜を破り、同志の集に先んじて、進んで大英國基督敎民さ共に此害惡を徹去せんさて出發し、當今該地に滯仕中なりさ云ふ。夫人が此度の擧に及びしは、彼の寡婦メンデメラマバイの運動に協心非常なる力あるものなり。本國婦人等はポーワー夫人の渡英並に彼の阿片賣買禁止の件に付きては尤も熱心なり、中にも一婦人の如きは、政府若し此毒藥を厭却せば余は政府を崇拜せんさきけぶや、衆人異口同音に然りさ應ぜりさぞ。

震地傳道隊報告

婦人矯風會錄

（一）今尾高須に於て公開演說を催す、隊旗翻へり聽衆堂に滿つ、主人僧侶の喧囂を斥ぞけ、有志家耳を傾むく。

（二）更に大垣に入り三日間公開演說會を開くの準備に着手す。

震地傳道隊　第十一報

十二月三十日東京巖本君より二番列車にて西下するの飛報大垣に達す是に於て松田順平湯谷磋一郎大垣を發し笠松に至り小野坦と會し名古屋に至る蓋し共に該地の形勢を談し且つ教役者諸氏と共に將來の運動上爲す所あらんとしたれは也是夜巖本君約の如く來着せらる翌三十一日夜一同美山貫一君を訪ふ共に將來の運動を談ず美山君は大奮衝闘の策を講し意氣慷慨大に期する所あるか如く我隊の運動を贊成し共に大に爲すべしと約せられたり是夜は美以教會の例にて會堂に於て除夜會の催しあり隊員美山君と共に參會す十時半開會感話祈禱繼次にありて終りに臨み數分の間一同默禱す時に時辰器十二點を報ず

嗚呼廿五年は來れり

來れり熱血を濺ぎて我か爲め我か邦家の爲め此震災地の爲めに默禱したる裏に來れり地軸一轉乾坤茲に改まり六合更に新なり嗚吁想起す明治廿四年は如何なる年なりしか義士は涙を呑みて胸を打ち俠夫は眼を怒らして手に唾せり廿四年は實に多事繁縟匆々苟且偷安の間に一幕を捲き終りたり看よ社會上政治上宗教上各如何なる歷史を印刷したる歟を然り而して多望多事なる廿五年正に來れり今や眼前に攻めよせたり我熱の士よ如何なる覺悟を以て之を歡迎したるか語を寄す我黨の士よ此廿五年は實に勝利の年なり否、ならざる可らざるを確信す願くは皇天微衷を憐みて自由の勝利を得るの年たらしめよ確信の勝利を得るの年たらしめよ多涙多血熱膓が勝利を得るの年たらしめよ吾儕不敏なりと雖も皇天の祝福を蒙りて奮鬪勇戰我邦を神に歸還せしむるの器とならんことを期し且つ望むかくて我か　皇の萬歲を奉祝し互に手を握りて新禧を祝賀し更に恩寵の一年を送らめと誓ひつゝ散會す時に零時三十分也聽堂を出つれは四面閒として寂如たり唯た仰ひて星辰の爛々たるを望むのみ

一月一日

門並に飾り立てたる千代の松、家毎に飜かへしたる御國の旗、草邊女か壽ふく鞠の歌、追羽根の音互みに祝ひあいたる途上の禮者御贊賀の聲淸く若水を吸む音のさやけさ

大君の千代田の宮に立つ春の
あまる光や四方にみつらむ

是や都門今朝の光景なるらし然りと雖も時も時所も所なれはや此朝け見回はす天地は依然たる震餘殘の天地なり都門の祝炮は此山に震はす立田の新粧は此水に映らす彼等の聲は叫喚の爲めに響くのみ彼等の涙は失望の爲めに流るゝのみ吁誰か之を救濟ふもぞ

今朝一番列車にて隊員は巖本君と共に濃州に入らんと欲し眠ること時餘を出でずして四時三十分起き出てゝ行李をおさめたり然とも宿婢爲めに起きて炊かす爲めに膳をすゝめず蓋し彼昨夜遲くして時を過ちたる也乃ち顏を洗はず雜煮を味はずあな珍しき正月よと打ち笑いつゝ宿を立ち出でぬ夜未だ明けず遙かに鷄鳴と數車の轢々を聽くのみ

六時氣車西に發す山野の淡影漸く模糊として雙眸に映し來れり四十餘分にて木曾川驛に着し更に車を賃して河に至る數日來溫暖なりしため今未明急に水增し濁流滔々

木曾川流れ急なり

且つ客多く舟少くして直に渡ることを得ず空しく立ちて待つこと數十分僅かに渡るを得たり舟人爲めに說きて曰く今曉鐵道工夫鐵橋を修繕するため河中の足場に在りしか急に水增し來り働ける所犯されて數多の者水に溺れたりと余直に問ふて曰く皆な助けられたりや否や舟人曰く彼等我に迫りて強て船を奪はんとし命に應ぜざれは打つべしと言へり故に我等は怒りて遂に舟を貸さゞりし也恐らくは多分死し去りたるべし樣の心地よきことよ余は言の意外なるに驚き奇しみ問へば工夫等平素傲然として舟人を輕侮し居たるか故也と舟中の人相顧みて默然たること久し

笠松病院

に至る此既に八時を過ぐること三十分先つ廿五年の顏を洗ひ來り新歌を唱し詩篇を朗讀す心氣如として又暢然たり我獵國手菊地音之助君の爲めに新年祝餅を饗せられたり淵明か九日酒なくして萬花に向ひしとき突然の賜に快飮したりし故事も今更に想起し來りて最とおかしかりし

都にてあまたのとしはへたれとも
ことしはかりの春なかりけり

八田知紀か歌、事異なれとも文字に同しく用ゐ得へし病院小學等を歴問したりしか後

岐阜市に至る

巖本君と共に根尾谷病院のこと並に我隊の運動に付き脇小柿氏始め委員諸氏を歴問す且つ廢娼的の事柄もありたれとも今は之を略す、一月二日

大垣に至る

着後直に隊會を開議する所數件愈明三日の安息日を以て公然開戰を宣告するの吉日と決定す先是藤井米八郎氏は我隊に在りて盡力一方ならざりしが大垣にて孤兒院を開くことは中止となり名古屋に移り且我隊は直接に傳道のみに從事することゝなりたりけれは藤井氏は既に目的の孤兒を十餘名東京に伴なひたることにもあり且つ其天職は孤兒の爲めと信ずるものから隊員と共に手を握り東歸することゝなりたり我隊は益友を失なひたるは最と哀しみに堪えざれとも凡て主の爲めなれは喜ひて分袂することゝなれり佐々木笑受郎氏も十二月にて預期みちければ既に東に去れり是より主か隊員として命を與へ殘ることを許し玉ひしは即ち松田順平小野坦湯谷磋一郎の三名なりとす

巖本藤井兩氏東歸

三日、預約名古屋にありけれは巖本君大垣を發し東に向ふ藤井君亦共に行かれたり

第一の安息日

をトして我隊の第一開戰となす抑も大に故ありと謂ふへき哉是日や唯徒に我隊の紀念日に止らずして震災地將來の大紀念日たらんことを主に祈るもの也實に祈るもの也是日我隊は大垣より舟を賃して揖斐川を下る五里

高須町に達す

抑も高須町は舊尾州藩の支族にして山田家の領する所三萬石の城下也海西下石津郡衙の所在地なり戸數六百八戸人口三千五十八今回全潰二百七戸半潰百六十戸死

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

亡二十一人負傷三十一人也といふ風に治療所設置せられ我黨の兄姉大に勞働せられたれは土地の人々も大に心を動かし町吏郡吏多く贊成の地位に達し亦我黨を遇するに暖かなりといふ既に數年前來天主教徒數名あり岐阜在留のチャツペル氏大垣本田清次氏時々巡回し來らるゝ趣にて既に講義所の設けあり

是日も過日來冬期休業の爲めに大坂より今尾町に來り居らるゝハミルトン、ツリストラム二女史婦人の爲めに集會を開かれ七十餘名來聽せりといふ

是夜七時講義所にて開會ハミルトン女史爲めに風琴を奏せられたり各一題を演說す時正に一時半餘百二三十名靜聽す翌四日夜七時復たび開會す來り會するもの七十餘名終始恰も水をうちたるか如く靜粛也き會衆は種々の種類ありて資產家名望家郡吏士族平民の區別なく少壯亦相混同したり

奔走と訪問

翌五日午前松田は貧童女教育周旋事務の爲めに奔走し小野満谷は當所第二の資產家と稱せらるゝ渡邊治右衛門氏を訪問す(氏の實父は前代議士也)尚ほ三十餘歲の壯年也互に種々宗教談を試みたり昨夜も來り聽きたる人なるか尚ほ宗教の必要を感せされともキリスト教の善美と信者の熱心は感動するに餘りありなと言ひ居れり吾儕研究せんことを勸告して辭し去り次きに菓子業太田庄三郎氏を訪ふ此人は兼て贊成家にして講義所の爲めに力を盡すといふ僅かに兩夜にして去るはあきたらぬ心地すれとも此地には聖公會にて傳道師を永住せしむるの企計あれは心を殘して午後

今尾町に至る

今尾町は安八郡に屬し高須町の北一里に在り戸數六百三十七、人口三千〇十七人、全潰五百〇三戸、半潰六十一、死亡六十八人、負傷五十八人此地亦風に治療所を設置したり最初に働きしは大阪ツリストラム女史及び村上さと高須いせ兩子なりとす此地に於ける我黨の名聲は笠松竹が鼻に劣らす爲めにキリストの說教すれはぶち殺す等と言ひ合ひノ此地も地震のバプテスマの大なる哉官民共に大に感動し遂に我隊も攻め入ることになりたり此地亦三萬石の城下にして竹越家の治たりしと云ふ而して翌日に物品救濟の爲め松田の來りたる所なれは郡吏町吏に面識ありて甚た都合よし

高田村の演說會

安八郡にして今尾町の東數町に在り村の有志家伊賀仁平なる人前日高須の會に來りたりしとき約束したりしか今尾に先ち五日の夜伊賀氏の宅に開會す此夜村寺にても說教ありしか使あり來り報して曰く今宵我寺會あり願くは貴會時を猶預せよと主人答へて曰く諸お坊さんも來て聽かつしやい八時半に至り來り會する者踵を接す樓上更に大鼓を打つて人を促かす其響音々四隣に震ふ村舍の古習遺風亦愛すへきかな暫にて僅に百餘家のうち集るもの百二三十名樓上に溢る雜踏恰人なきか如し偶二三の僧侶も亦來り聽き時々妄評を試むること穩なし主人怒りて

僧侶を叱咤す

集り終り更に主人起て客に謝し且つ僧侶に向て曰く全躰お坊さまは人々を伴ひ導きて極樂に至るへきものにあらすや然るに亭主の斷り置きたるにも拘らす演說を妨くることは抑も何事ぞダカラお坊さまの評判がわるくなつて仕舞ひし也自分等は力をつくして道を傳へずに人の邪魔をなすとは坊主何事ぞ」聽衆は大笑す余は知りぬ本願寺の領地既に斯くの如きか」主人語を次きて曰くサア是から質問かあるなれはシッカリ聽かつしやれ出家なかせるから何ばなと聽かしやれ然れとも僧侶語なく質問なく悄々として知らぬ間に聽衆に混して去りたり聞けは愛知の教校にて學ひし人たち也と

夜十一時今尾の逆旅藤島屋に歸り宿す

今尾町の演說會

初め宿なる藤島屋にて開會する都合なりしか宿の老翁御寺にて耶穌に家を貸すなと言はれたりとて主人なる人は心配して一家を周旋したり抑も此家は目下新築中にて三間四方唯た土間のみ壁は左右にあれとも前後は吹きぬきにて寒風は自由を主張し平等を鳴らして荒れまはりたり故に前に席を掛け正面には家外に即席料理の演壇を設け幕を下部に回らしたれとも天井は雲と星との新模樣也其演壇はケ官の足臺にて僅かに毛布をかけたり燈火は土間に竹を立て蠟燭を點し中間に炭火を澤山にもやしたかくて準備終りければ七時十五分開會九時閉會す余は感冒に犯されて痛く咽喉を害したりしかば不幸主の證據を述ぶることを能はざりき先是

隊旗成る

其の中央に東京特派基督教震地傳道隊と大書し右側には「天に榮光地に平和人には恩寵あれ」左側には我は途也眞理なり生命なり」と記す巾三尺長六尺の寒冷紗中々にいかめし是日此隊旗を會場の前に飜へしたり見るもの顧みて奇み相語る

七日第二回を開く

是日寒風凛冽肌をさくか如く夜開會する比雪片飜々席の間より犯し來り燈火も消えんとすること數次炭火に薪を加へ光を增し加へて僅かに開會するを得たり然れとも五六十名の人たちは殊更にも靜粛に聽きて時々密かに贊成の語を洩したり實に吾人は主に感謝するの言葉なき程也殊に僧侶是日亦家主に迫り家を斷はらしめんとせり然るに家主は確然答へて僧侶の不正不當を責問し貸す爲めに造りし借屋ぞかし御前樣らはなんと言ふと直ちに賽錢ばかりを貪りたる罰に古今非常の災害に當りては全るで知らぬまれして剩さへ他人の働きを邪魔するとは何たる事ぞもし耶穌がイヤにならしツかり論をして見しやしやいなんだ坊主のくせに是れ即ち一町民が堂々たる本願寺の門派に向き言ひ放ちたる言葉也吾儕は至る所僧侶の不道不德を訴へられ甚困却に堪えず辛ふして彼等を言ひなだむるの外なき也起きよ我黨の士よ濃洲の沃野百里色黃みて諸君を歡迎せんとす彼等が救ひを求むるの聲は既に天に達せり矣願くは來りて鎌をとれ來りて平和の福音を宣へ傳へよ

今日は大垣に進軍するの豫算なりしと雖も此今尾町を去る數町なる佛師川村の豪家谷清氏より懇篤なる招待なればマケドニア人の求め否みがたく今宵は一行其家にて開會するの約束也氏は自由黨員にして村民は大盡樣といふ尚ほ蛇池村長近藤氏よりの懇請もあれども大垣の豫約に背くこと一日なれば止むことを得ず謝したり

一月八日濃洲今尾町にて

會計

第七回報告

○入之部

百八十二圓六十一錢九厘	前回迄入合計
八錢	岩代須賀川町小學生徒山田菊次
計合 百八十二圓六十九錢九厘	

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○出之部

●百四十三圓五十五錢　前回迄出貨合計

●一圓〇八錢　東京にて入用(三日より十一日迄)

右內譯

二錢 (五日) 大垣磯野員爲氏へ書狀

一錢 (五日) 東京津田仙氏へハガキ

七十錢 (七日) 大演說會ノ件橫濱行滊車及人力車代

一錢 (八日) 橫濱佐々木氏へハガキ

四錢 (九日) 名古屋靑年會及大垣へ送狀

十錢 (十日) 下谷敎會へ湯谷君ノ事ニ付往復

十八錢 (十日) 大垣へ電報及手數料

二錢 (十一日) 中村友吉氏へ送狀

●十圓〇四錢七厘　傳道地にて入用(三日より九日迄)

右內譯

一金三拾五錢 (三日) 大垣ヨリ高須マテ船賃

一金四拾五錢四厘 雜費

一金拾五錢五厘 (四日) 雜費

一金貳圓三拾錢 (五日) 三四兩日旅宿料

一金貳拾七錢五厘 雜費

一金七拾五錢 (六日) 演說會場及炭薪蠟燭

一金八錢七厘 雜費

一金貳拾八錢八厘 (七日) 雜費

一金拾四錢 (八日) 雜費

一金四圓三拾錢六厘 (九日) 五日ヨリ九日マテ宿泊料

一金九拾錢 今尾大垣間車代

一金四錢二厘 渡船賃

一三圓 三澤歡治氏根尾谷行費

合計百五十七圓六十七錢四厘

差引現殘金二十五圓〇二十五錢也

品名	十一月十四日
白米(一円に付)	
一等米	一斗〇升一合
二等米	一〇三
三等米	一〇五
四等米	一一〇
五等米	一一四
正米(一円に付)	
伊勢米	一斗四升一合
江州米	一三一
磐城米	一四〇
土浦米	一三七
忍領米	一三八
雜穀(一円に付)	
本貫大麥	二斗九升〇合
上州小麥	一七五
竹林麥	一八〇
梅澤大豆	二〇〇
青柳大豆	二〇〇
吟小豆	一五五
白胡麻	一二六
黑胡麻	一五〇
鹽(一円に付)	
赤穗	三、三五
大鹽	三、四五
本齋	五、三五
新齋	五、九五
醬油(一円に付)	樽分厘 七四 七九 八七 一、一〇 一、二七 一、五七 一、七二 一、九〇 二、二〇 二、五〇
最上	
極上	
上物	
中物	
並物	
味噌(一円に付)	
地製上白	貫 六、八〇〇
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	四、三〇〇

品名	十一月十四日
八王子織物(一反に付)	
本糸織鼠物	五円、〇〇
同替立	六、〇〇
同珍柄	七、五〇
節糸織	四、五〇
同瓦斯入	二、五〇
一樂織	一〇、〇〇
同珍柄	八、〇〇
飛地黄八丈	四、五〇
同大柄	六、〇〇
黑地黄八丈	四、七五
岸縞	三、〇〇
玉八丈	三、〇〇
甲斐絹	三、七五
同本縞	五、二五
同書縞	六、五〇
黑八丈	八、〇〇
同重目	一〇、〇〇
黑七々子	七、〇〇
白斜子	七、〇〇
同本正重目	一一、〇〇
嘉平治平	五、〇〇
節仙臺	七、〇〇
仙臺平	八、〇〇
本八端織	六、五〇
濱縮緬(一反に付)	
大巾上物	五円、一〇
小巾百廿目立	五、五〇
同並物	五、〇〇
六丈絹猩々紅	
五十目立	五円、五〇
糸吉生絹(一疋に付)	
六十目附	匁 二七、〇〇
七十目附	二七、〇〇
八十目附	二七、〇〇
百目附	三八、〇〇

品名	十一月十四日
製茶(一貫目に付)	
山城江州稀大頭	二円、五五
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七五
同中頭	一、四五
同中茶	一、二七
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七三
同大頭	一、四五
同中頭	一、三〇
同中茶	一、〇五
鰹節(十貫目に付)	
土佐上	二三円、〇〇
薩摩大	一九、五〇
城の腰	一九、〇〇
房總中	二〇、〇〇
銚子上	一三、〇〇
水戸磐城	一三、五〇
乾海苔(百枚に付)	
洲崎上	九〇錢
大森同	八五
深川砂村同	九〇
大師河原同	八〇
潮田同	六〇
水油(一樽に付)	
地水	六円、六〇
胡麻	九、七〇
荏油	九、六〇
桐油	五、四〇
綿油	：：：
坑水	七、五八
石油(一箱に付)	
チヤスター	：：：
ダポース	：：：
ホーキ	一円、五六
ロシヤ	一、五六

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社取次書目

著者	書名	冊數	價
金森通倫君著	日本現在及將來之基督教	一冊	價二十錢
池袋淸風君著	淺瀬の波	二冊	同三十錢
花房庸夫君著	明治女大學	一冊	同二十錢
松田敏足君著	女小學躾草	二冊	同四十錢
吉田利行君著	日本女子讀本	三冊	同三十九錢
香月恕經君著	女子文例	一冊	同二十五錢
安東松次郎君著	貧兒の教育	一冊	同六錢
湘煙女史君著	善惡之岐	一冊	同三十五錢
安枝武雄君編輯	正義の反響	一冊	同十五錢
鈴木弘恭大人著	作文口授	一冊	同二十八錢
三島通良君著	母のつとめ	二冊	同七十錢
新倉從次郎君編	國文自在	一冊	同四十錢
坪谷善四郎君著	日本女禮式	一冊	同五十錢
木村駿吉君著	新編物理學	一冊	同六十五錢
元良勇次郎君著	心理學	一冊	同七十錢
鈴木弘恭大人著	國文抄	續出	同三十錢
三上參次高津鍬三郎君著	日本文學史	二冊	同一圓六十錢

通信女學第三期生新募廣告

學問隆盛の今日、女學の進歩一と方ならず、凡そ年頃の娘君にして奮發學に就かぬは最と〳〵少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉強をさ〳〵年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も皆學問と云ふことに心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女德に欠けしやう思ふに至りぬると明治の代の恩澤にて有がたきことと云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も茲に入學して日々の進歩目覺しきとなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々は最早家を出て通學することも出來ず又家に教師を引て教を受るも甚はだ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利の書物はなきかと屢ば問合せあり、吾社之を以て遂に意を決し、昨及一昨年一月通信女學の仕組を新設し、毎月一冊の講義録を出版して、四方晩學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、其十二月に至り、一ヶ年の課業を恙がなく卒へて、快ちよく全科を卒業したるもの八百餘名あり。然るに、去年一月申込の期に後れたる人々も少なからざるを以て、本年更に講義録を再版し、改めて第三回の習讀者を募る。

教授科目左の如し。

萬國史、日本歷史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政學、衛生、育兒(看病と合す)裁縫、圖入地理、英學。

教師は、醫學士三島通良、農學士寺尾熊三、吉田伸子、渡邊辰五郎諸氏其他重もに明治女學校の教員諸君に委賴し、專ら深切鄭寧を主意とす。

代價一冊前金三十二錢(無郵稅)、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。

明治二十五年一月廿五日第一號を發兌し、以後毎月廿五日に出版して翌一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

東京麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

明治女學校幼年科新設の廣告

本校從來本科の下に豫科を置き高等小學相當の授業致來りしが今の小學敎授上德育に慨する所あり又本校主旨とする所の敎育を施さんには之を更に幼少なる年代より初めざる可らずと信じ此度豫科の下に更に幼年科を新設し專ら尋常小學相當の授業を爲さまく欲す、左れば六歲家庭の溫養を蒙むり了りたる曉は直に此幼年科に入り追ふて豫科に登らば其後三年にて小學全科卒業の資格を得べし、而して此小學科の科程は無論文部省指定の則に隨ふ、其精神上の修養法に至りては自から世間一般の小學校と趣を異にする者あらん吾輩の精神希望に贊助せらるゝ諸君は請ふ其幼けなき愛嬢を來學せしめよ。

月謝三十錢、束脩金なし、冬期薪炭料五錢。

總路通學しがたき人は本塾に寄宿せしめ年長生徒一名を其保護者となし一切監督す。

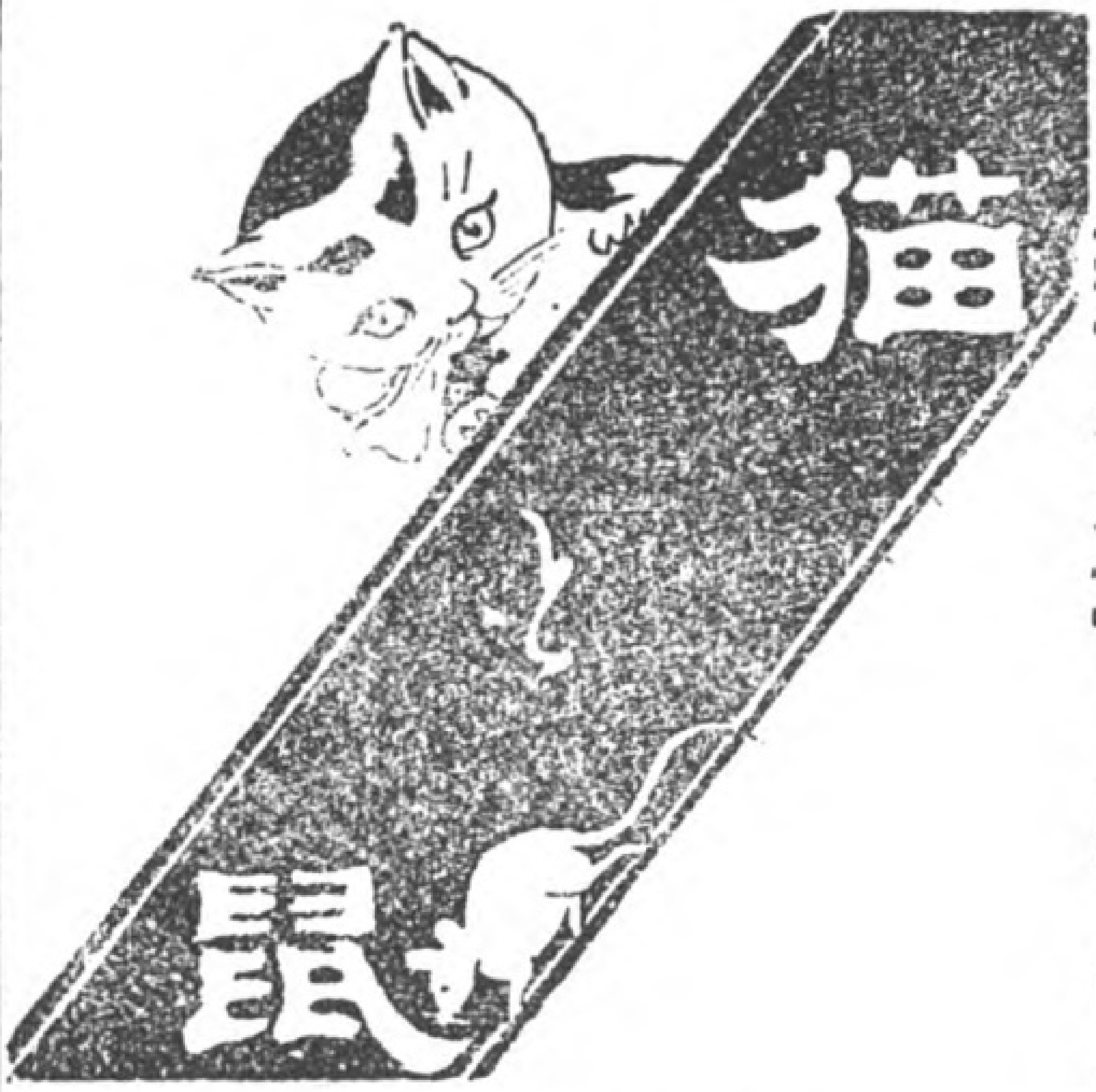
右寄宿塾費一ヶ月二圓五十錢、塾費一圓。

（一月十五日始業、至急申込を要す）

東京下六番町六番地

明治女學校

新年遺ひ物佳書



は面白き勸懲繪草紙にして第一子供にも分り易く大人にも敎へとなるべき意味ある書物なれば土產遺物としては無類のものに候

定價一冊**五錢**

郵送料二錢

女學雜誌社

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれ〴〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊（改正）	上三十五錢 並二十八錢
船越鼎太郎君著	產婦小兒攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子君著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
橫山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治君述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同四錢
農學士寺尾熊三君著 林學士星野愼之介君著	植物學	一冊	同十二錢
	昆虫 植物 金石 採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木兼辰君著	和書手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治君著	木村鐙子小傳	一冊	同八錢
訓蒙繪双紙	猫と鼠	一冊	同五錢

下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○日本第一等おしろいいらず御化粧用

此白妙は藥劑師大鐘立岱氏の發明創製するものにして本舖に元販賣を托せらる依て賣始めの祝ひとして來る明治廿五年一月二十日より廿七日迄左の品々の內何品なりとも御好みにまかせ白妙御求めの定價に相當する丈け大强勉景物として差上升れば發賣の當日より陸續御光來を乞ふ

小瓶 金十錢
大瓶 金廿錢

白砂は薄化粧の料としてつやある美しき白色をあらわし白粉をぬり附たるがごとき氣味少しもなし

白砂は化粧下に用ゐて白粉の附き方よくむらにならず又あせをかきてもはげるとなし

白砂を用ゆればいかにあれ性の人にてもあれるとなくにきび○あせも○はたけ○すりむき○ひゞあかぎれ○しもやけなど直ちに治すべし

白砂は人躰 はだをやわらかにしてつやをよくし眞にゑんびなるはだ合となし色黑き人もしぜんにま色白の美人となるべし

白砂は少しの水にてとかし又は其まゝにて用ゆるもよし

白砂はもちまへの香氣によりてもろ〳〵の不淨を淸むべし

白砂は醫藥衛生の諸學理とあまたのためしとにもとづき○ワセリン○リスリン○チノリン 白色顔料其他いろ〳〵の藥を以て製造したる無比の化粧料なれば從來世間にありふれたる化粧下や水白粉ねり白粉とは大にきゝめあり

白砂は人躰に無害有効なるは勿論化粧下に用ひて日本白粉のなそる可きさくをふせぎ前記の實効を有する事は近來がいこくの醫士學士等のとつけんせつとて又わがたび〳〵のためしとによりてしかとみとむる所なり乞ふおためしの上御ひようはんをたまへ

但し大强勉景物は此廣告新聞を御持參の御方に限り差上升からおわすれなく御持參被下度候

元祖色白くなる三能しやぼん 壹個 拾錢
髮のこやし毛のはへる香油一名美人かつら 一瓶 拾錢
あれ性の御方々は御必用玉子ぬか 壹個 壹錢五厘
御おしろい下ひゞぐすり玉のはだ 壹瓶 六錢

銀坐一丁目つやふきん
發賣本舖 佐々木玄兵衛

轉地保養

本年十四歳娘一人十二歳娘一人 右修身ノ爲奉公爲致度ニ付キリスト敎篤信ノ御家ニシテコマ使イニ御入用アラバ下名御申越シアリタシ

神戸市山本通六丁目四十六番屋敷 望月興三郎
麻布區六本木町十五番地 古屋爲祐

普連土女學校入學廣告

本校廿五年一月十一日始業

本校ハ今般敎授ニハ內外ノ良敎師ヲ撰ミ寄宿取締ニハ本邦婦人ノ手ヲ以テシ務メテ懇切嚴肅ニ敎育ノ任ヲ盡サントス通學寄宿共ニ入學ヲ申込マルベシ

東京市芝區三田功運町三十番地
私立普連土女學校

○普く主に在る姉妹に告ぐ

我儕今般同志者と相謀り、高知女子傳道學會なる者を設立したり。其の目的は有志の婦女をして、特別に聖書を講究し、傳道の方法を實習せしめんとするに在り。主に在て愛する姉妹諸君の陸續來學あらん事を冀望す。

但し本會の規則幷に學科課程を一見せられ度諸君は一片の端書を寄送あれ。

明治廿五年一月

高知女子傳道學會

雜誌定價

一冊	六錢	郵稅。	五厘	（但府內無郵稅）
十一冊	五拾八錢	郵稅。	五錢	（同前）
半年分	壹圓四拾三錢	府外は		壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は		貳圓八拾六錢

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
編輯兼發行人 嚴本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

小瓶 金十錢
大瓶 金廿錢

○日本第一等おしろいいらず御化粧用
此白妙は藥劑師大鐘立岱氏の發明創製するものにして本舖に元販賣を托せらる依て賣始めの祝ひとして來る明治廿五年一月二十日より廿七日迄左の品々の内何品なりとも御好みにまかせ白妙御求めの定價に相當する丈け大强勉景物として差上升れば發賣の當日より陸續御光來を乞ふ

白砂 は薄化粧の料として つやある美しき白色をあらわし白粉をぬり附たるがごときき氣味少しもなし

白砂 は化粧下に用ゐて白粉の附き方よくむらにならず又あせをかきてもはげるをなし

白砂 を用ゆればいかにあれ性の人にてもあれるとなくにきび○あせも○はたけ○すりむき○ひゞあかぎれ○しもやけなど直ちに治すべし

白砂 は人躰 はだをやわらかにしてつやをよくし眞にゑんびなるはだ合となし色黑き人もしぜんにまま色白の美人となるべし

白砂 は少しの水にてとかし又は其まゝにて用ゆるもよし

白砂 はもちまへの香氣によりてもろ／＼の不淨を淸むべし

白砂 は醫藥衞生の諸學理とあまたのためしとにもとづき○ワセリン○リスリン○チノリン 白色顏料其他いろ／＼の藥を以て製造したる無比の化粧料なれば從來世間にありふれたる化粧下や水白粉れり白粉とは大にきゝめあり

白砂 は人躰に無害有効なるは勿論化粧下に用ひて日本白粉のおそろ可きどくをふせぎ前記の實効を有する事は近來かいこくの醫士學士等のとつけんせつとまたわかたび／＼のためしとによりてしかとみとむる所なり乞ふおためしの上御ひようはんをたまへ

但し大强勉景物は此廣告新聞を御持參の御方に限り差上升からおわすれなく御持參被下度候

元祖色白くなる三能しやぼん 壹個 拾錢
髮のこやし毛のはへる香油一名美人かつら 一瓶 拾錢
あれ性の御方々は御必用玉子ぬか 壹個 壹錢五厘
御おしろい下ひゞぐすり玉のはだ 壹瓶 六錢

銀坐一丁目つやふきん

發賣本舖 佐々木玄兵衛

轉地保養

本年十四歲娘一人十二歲娘一人 右修身ノ爲奉公爲致度ニ付キリスト敎篤信ノ御家ニシテコマ使イニ御入用アラバ下名御申越シアリタシ

神田區……目四十六番屋敷 望月興三郎

麻布區六本木町十五番地 古屋爲祐

普連土女學校入學廣告

本校廿五年一月十一日始業
本校ハ今般敎授ニハ内外ノ良敎師ヲ撰ミ寄宿取締ニハ本邦婦人ノ手ヲ以テシ務メテ懇切嚴肅ニ敎育ノ任ヲ盡サントス通學寄宿共ニ入學ヲ申込マルベシ

東京市芝區三田功運町三十番地 私立普連土女學校

○普く主に在る姉妹に告ぐ

我儕今般同志者と相謀り、高知女子傳道學會なる者を設立したり。其の目的は有志の婦女をして、特別に聖書を講究し、傳道の方法を實習せしめんとするに在り。主に在て愛する姉妹諸君の陸續來學あらん事を冀望す。
但し本會の規則幷に學科課程を一見せられ度諸君は一片の端書を寄送あれ。

明治廿五年一月

高知女子傳道學會

雜誌定價		
一冊	六錢 郵稅。五厘	（但府内無郵稅）
十一冊	五拾八錢 郵稅。五錢	（同前）
半年分	壹圓四拾三錢 府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢 府外は	貳圓八拾六錢

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三